シーニックバイウェイ北海道 推進協議会

令和元年9月20日





Scenic Byway HOKKAIDO

平成20年度よりシーニックバイウェイ北海道の推進に向けて、他の模範となる ルート活動であり、将来への発展性が高く評価できる取り組みを選出し表彰する「ベス ト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト」の取り組みを実施。

ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2017 ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2016 ~地域・電線管理者と連携した「電線の見えない化」~ ビューポイントパーキングの景観改善(電線移設) (支笏洞爺ニセコルート)

いにしえ街道の景観を活かした街づくり (どうなん・追分シーニックバイウェイルート) ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2015 そららの森の植樹活動〜地域で育てる森プロジェクト〜 (釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ)







ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2014 「ライフコンシェルジュ(ご当地風土アドバイザー) 育成事業」(トカプチ雄大空間)



「トカプチまる得めぐり券事業」 (トカプチ雄大空間)









く表彰>

Scenic Byway HOKKAIDO

- ●活動団体賞1件(指定・候補ルートを対象) 【エントリー数 17件】
- ●部門賞3件(指定ルートを対象)
- <エントリー部門>

美しい景観づくり賞 【エントリー数 3件】 活力ある地域づくり賞 【エントリー数 5件】 魅力ある観光空間づくり賞 【エントリー数 6件】

- ※部門賞は、部門毎に1件とし最大3件とするが、評価の結果によってはこの限りではない。
- ●最優秀賞「ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2018」1件(指定ルートを対象) 部門賞の中から1件選出

## <評価の視点>

<u>地域の資源を発見・活用し、有形・無形の「新しい価値」を生み出しているか否か</u>に評価の軸を置くと共に、以下の点に留意し、プロジェクトの評価を行う。

## -部門賞及び大賞-

- 持続性(取組の継続性の程度を評価)
- 浸透性(地域内への広がりの程度を評価)
- 拡張性(モデルケースとしての地域外へ展開の程度を評価)
- 連携性 (地域同士や他団体との連携の程度を評価)
- 先進性(新しいものに取組んでいく姿勢の程度を評価)
- 効果性(定量的・定性的な効果の程度を評価)
- 人材育成



**Scenic Byway HOKKAIDO** 

## ▼各賞決定までの流れ

## 募集開始



## 各ルートから活動の応募





## ■活動団体賞

## 各ルートによる投票

- ※対象:指定及び候補ルート
- ※自ルート以外に、持ち点10点を自由配点
- ※最多得点を得たプロジェクトを活動団体賞として選出

## ■部門賞、最優秀賞

## ルート審査委員会にて審査

- ※対象:指定ルート
- ※ルート審査委員が、持ち点10点を自由配点
- ※最多得点を得たプロジェクトを部門賞候補として選出
- ※選出された部門賞候補から最優秀賞を選出





## 推進協議会にて活動団体賞、部門賞及び最優秀賞を決定

# 活動団体賞候補〔エントリー17件〕



## Scenic Byway HOKKAIDO

					Scellic byway Horraido
NO	ルート名称	活動名称	点	数	主なコメント
1	東オホーツクシーニックバイウェイ	シーニックデッキの設置	4		観光客の立場に立った、観光をゆっくり楽しむための、観光PRのためのツールに評価。
2	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェ イ	道路景観の改善に向けた道路附属物の影響評価と改善	4		明確な時限計画に基づき景観改善が概ね完了したことが評価できる。今後の 付属物以外の景観課題箇所についても期待する。
3	函館・大沼・噴火湾ルート	〜北海道命名150年の年に「はこだて花かいどう」が15年目〜 函館新道「花いっぱい活動」植栽活動	19		10年を超える活動が地域に定着して、親子二世代での参加や1000名を超える参加など、活動が継承され持続性のある活動となっている点を評価する。
4	支笏洞爺ニセコルート	〜景観阻害物を撤去して再利用!〜 道路周辺等の雑木駆除を生かした観光振興プロジェクト	21		景観向上のため駆除した雑木が、加工品となって地域活動に還元される循環型の取組は大変評価でき、他ルートでも取り組める拡張性がある。
(5)	東オホーツクシーニックバイウェイ	ルート内道の駅スタンプラリー	1		幅広い年齢層に対応する、スタンプラリーを民間企業とコラボした事を評価。
6	十勝シーニックバイウェイ トカプチ雄大 空間		7		組織の活性化はどの分野でも必要であり、一早く着手した点を評価する。
7	札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定 山渓ルート	地域資源の再発見〜100年後の未来に残す「道づくり」 	8		地域の魅力はまず、住んでいる人から理解することが大事であり、将来を見 据えた活動は評価できる。
8	どうなん・追分シーニックバイウェイルー ト	どうなん道の駅連携事業	0		-
9	層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ	フォトラリーの開催	2		スマホなど、新しい写真撮影方法を取り入れた事を評価。
10	空知シーニックバイウェイ -体感未来道-	~これからの空知を考える~地域創生フォーラム	2		新規ルート立ち上げに向けた人材育成、連携性が評価できる。
(1)	支笏洞爺ニセコルート	〜支笏湖―体の持続的な発展に向けて〜 国立公園満喫プロジェクト「おもてなしの地域づくり」	22		国立公園支笏湖を、自然と共生する観光地を目指して組織体制を構築し、インバウンド対応のプログラム開発や、地域が一丸となって取り組む姿勢は大いに評価でき、先進性がある。
12	大雪・富良野ルート/宗谷シーニックバイ ウェイ/萌える天北オロロンルート/天塩 川シーニックバイウェイ	道北シーニック連携フォトコンテストの開催	10		4ルート連携という道北地域で広域に展開している点を評価する。今後、広域での連携の在り方について変化していくことも期待でき、全道SBWにおいても好事例である。
13	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェ イ	包括連携企業や道の駅と連携したスタンプラリーの開催	10		包括企業や道の駅との連携による地域の魅力向上を図っているとともに、 シーニックカフェなどにおける割引特典もあり、エリアの周遊や更なる地域 の魅力PRに参考となる取組である。
14)	萌える天北オロロンルート	シーニックカフェの登録・カフェ連携の推進	0		-
<b>1</b> 5	十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山 麓ルート	フォトコンテスト事業	5		インスタグラムを活用し、若年層にも参加しやすい仕組みの構築が素晴らし い。
16	天塩川シーニックバイウェイ/宗谷シー ニックバイウェイ	「きた北海道エコ・モビリティ」の推進 R 3 モニター ツアーの実施	28	0	地域課題の解決を体験型観光を通じて取り組み、2ルートによる広域連携を図り、周遊性向上の参考となる取組である。また、関係機関との調整・連携に尽力され、民間企業との今後の連携に期待できる取組である。
17)	空知シーニックバイウェイ-体感未来道-	"道の駅"からはじまる"空知サイクルツーリズム"	7		サイクリストの立場に立った愛のある活動が素晴らしいと思います。

「きた北海道エコ・モビリティ」の推進 R3モニターツアーの実施

<u>エントリー部門</u> 魅力ある観光空間づくり

ルート名称

## 天塩川シーニックバイウェイ × 宗谷シーニックバイウェイ

- ①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)
- ●目的・目標/体験型観光と個人旅行のニーズを含め、一次交通の衰退や二次交通の脆弱さを逆手に、地域にとってプラス に、地域資源に触れ・遊び・**移動そのものが観光**となる新しい旅のスタイル『**きた北海道エコ・モビリティ**』 を広域で連携・推進 ⇒スロウな旅が地域への滞在時間の長期化・経済効果・周遊性向上に繋がる。
- ●活動内容/R3モニターツアーの実施+q (TEPPEN-RIDEとバスツアー)

道 (Road = 自転車・歩く) と川 (River = カヌー) と鉄道 (Rail = JR 宗谷本線に乗車、駅弁) が並行する地 域性を活かして3つのRを繋ぎ、美しい景観を見て&自然に触れて遊び&美味しいものを味わいながら日本 のてっぺんを目指す旅を提供。過年度より実施している自転車だけで日本のてっぺんを目指すサイクリング イベントTEPPEN-RIDEとは違う楽しみ方で、地域をより深く知ってもらう。

そこで

## **く過年度までの参加者・その他意見より>**

- ★TEPPEN-RIDEをいつかは走りたい。けれど、全工程を走り切る自信 がない。けれど、てっぺんを目指したい。
- ★自分はTEPPENに参加したいが、家族で旅をしたいため、自転車だけ でないものがあるといい。
- ★地域資源に触れて遊びながら、地域の人と触れ合う時間がほしい。
- ★色んなアクティビティを楽しみ、ゆっくり巡りたい。
- ★TEPPENライダーたちを応援したい。

**⇒当エリアへ興味・関心**があり、**ツアーのニーズ**もあることを確認できた。

こちらの目的(目標)とニーズに合わせて

## 3種類のツアーを同時開催!

- ●自転車のみ=TEPPEN-RIDE
- ❷様々なアクティビティ+JR=R3モニターツアー
- **③**バスのみ=TEPPEN応援バスツアー
- ◎同じ出発地・到着地×3日間!
- ◎3種3様の異なる移動手段で 同じゴールを目指す!
- ◎毎日どこかのタイミングで合流!
- ●活動期間/2018年7月~2019年9月 <2017年度から「きた北海道エコ・モビリティ」の取組みを継続実施>
- ●活動範囲/きた北海道エリア(天塩川シーニックバイウェイ、宗谷シーニックバイウェイ、その他関係する近隣市町村)

②活動の体制

〈協力・連携〉

③ P Rポイント

## 実施主体 きた北海道エコ・モビリティ

天塩川シーニックバイウェイ [事務局] 宗谷シーニックバイウェイ

シーニックバイウェイ支援センター

常に密に情報共有

北海道エコ・モビリティ研究会/北海道のサイクル ツーリズム推進に向けた検討委員会/旭川開発建設 部/稚内開発建設部/JR北海道旭川支社/その他(団 体/自治体/企業等)

## 【総意工夫した点や苦労した点】

- ・JRとの協議を重ね、スムーズな移動手段を検討(既存列車の有効活用等)
- ・R3とバスツアーの立ち寄り箇所・体験メニューを毎日変え、各ツアーの 参加がお互いに体験したことを共有しあい、当エリアの様々な魅力を別の 角度から知れるような仕組みとした
- ・将来の自走を見据え、取り組みへの協賛を募り、広報媒体等でPRした
- ・道路(自転車/バス)と川からのアプローチ(カヌー):絶妙な場所の設定と時間調整
- ・3つのツアーが同時に進行のため、スタッフ間での情報共有を徹底

## 【活動による効果】

- ・JR(旭川支社)との連絡体制が確立/取組みへの理解が増した
- ・旅行会社で別途、TEPPEN-RIDE応援ツアーの企画・販売された
- ・協力企業(仲間)が増え、運営資金の確保に繋がった



▲ツアー参加者募集のチラシ



▲JR宗谷本線に自転車積込:輪行





▲TEPPEN-RIDE参加者とバスツア

## 部門賞 美しい景観づくり部門候補〔エントリー 3件〕



## Scenic Byway HOKKAIDO

No.	活動名 【ルート名】	点数	評価意見
1	シーニックデッキの設置 【東オホーツクシーニックバイウェイ】		①持続的な活動、②今後、若手人材(活動団体)との連携を期待。 ・新規出店への努力 ・シーニックデッキの着実な増加と活用が素晴らしい。 ・常設マルシェの他、他との差別化内容が不明確。 ・集客・利用度等実績把握や評価測定が出来るのかどうかが不明。 ・景観の良いときにマルシェを開催して、ルートの認知度を上げ顧客拡大を展開している点、また、マルシェ 開催が継続して行われ、更に出店者が増え続けていることを評価する。今後もブランド認知度を深めて欲しい。
2	道路景観の改善に向けた道路附属物の影響評価と改善 【釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ】		①「マスタープラン」を持っていること、②マスタープランV2の策定を期待・5年間のPDCAの徹底。大きな成果・3者とも素晴らしいが、少しだけリード?5年間と時限を決めたことが高く評価できる。成果も着実に上げている。・継続的なPDCA体制構築意欲は評価できる。・マスタープランの次年度以降の具体的将来像が不明確。・道路景観改善に向けた本格的な取組の持続的な活動と、景観改善のモデルとなる取組を評価する。とりわけ計画策定で終わらない仕組み構築を評価する。
	〜北海道命名150年の年に「はこだて花かいどう」が15年目〜 函館新道「花いっぱい活動」植栽活動 【函館・大沼・噴火湾ルート】		①持続性、②活動組織の連携、③期待すること(活動の広がりを期待) ・継続性 ・圧倒的なボリュームによる効果は大きい。継続による地域活動としての幅広い定着も良い。 ・多くの関係者を巻き込み、長期にわたる全参加型のおもてなし体制は好評価。 ・これによる効果測定のうち実際の来訪者の評価測定がより活動のグレードアップ化、継続性の確保が可能になると思われる。 ・15年という歳月をかけて取り組んでいること、また、地域の小学生から大人まで巻き込んで地域全体の活動として定着していることを評価する。

活動名称

道路景観の改善に向けた道路附属物の影響評価と改善

エントリー部門

美しい景観づくり

ルート名称

釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ

## ①活動の概要

- ●活動の背景と目標:「ルート景観づくりマスタープラン」は、ルートが誕生した平成20年に策定しました。活動団体、 地域住民の高い意識で計画を策定したものの、フォローアップを行う持続的な仕組みが構築されておらず、思うよう に改善が進んでいませんでした。シーニックバイウェイの源流である「景観の持続的な改善」が活動の目標です。
- ●活動概要:「ルート景観づくりマスタープラン」の各景観課題は、それぞれ改善の優先度が異なるため、始めに現地視察を実施し、**優先度を評価**した上で、中期的な時限計画とフォローアップ体制を再構築し、景観改善を行いました。
- ●活動場所: 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイの主要ルート(R240、R241、R243、R272、道道中標津標茶線)
- ●活動期間:平成25年度)現地視察による改善優先度の評価⇒時限的(5年間)な道路附属物の適正化年次計画を策定

平成26年度~平成30年度)優先度に応じた附属物の適正化の依頼⇒改善結果の確認・評価⇒次年度目標の設定

# 

## ②活動の体制と実施手順

I)現地視察会での評価(平成25年9月19日)

道路附属物による景観阻害状況を視察し、改善の優先度、必要性をSBW・住民、道路管理者で評価







Т	適正化年次計画	箇所			丰次	計画	i	
		(6177)	H25	H26	H27	H28	H29	H30
_	青矢印	- 8	7	1		XG7		
憂先变	白矢印	9	8	1				
花寶	青シェブロン	4		4				
	標識集約(多数移動)	2			2			
	矢羽根干渉	3			3			
1	赤シェブロン	9				3	3	3
	黄シェプロン:異形	2						2
-	標識集約(2枚)標識集約(1枚移動)	2				1	1	-
t	標識集約(1枚移動)	16		3	12	2	1	
	蛍光看板	E		2			2	2
	橋欄干(環境色へ)	4				2	2	1
	視線誘導柱(環境色へ)	54				13	24	17
Ì	標識重複	3		3				
B.	標識柱(環境色へ)	1						1
	生育不良(剪定しすぎ)	9			4	5		
	シェブロン(道道)	1						
E	標識(公安委員会)	1						_ 1
	背面利用、電柱	付	捞え	おとく	1/2-1	シヴ	(電)	i
Τ	合計		15	14	21	26	33	28

## 皿)持続的改善とフォローアップ

●H26~H29 Plan:優先度に 応じた年次計画 (SBW・開建本部)

じた年次計画 3W・開建本部) ウェ: 可能な範囲で 付属物の適正化 (開建本部・事務所)

Action: 改善計画の 再検討・課題整理 (SBW・開建本部)

Chech: 現地確認と 改善結果の評価 (SBW・開建本部)

●H30

更新・補修時の対応箇所を整理

## ③PRポイント

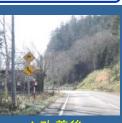
- ●現地視察による優先度評価:全課題箇所の改善 は難しいため、始めに現地視察を行い、優先的箇 所、急がない箇所、改善不要箇所を明確にしまし た。
- ●目標の明確化:計画策定が目標ではなく、実際の 改善が目標であることを明確にするため、5年間の 年次計画を定めて、景観改善を目指しました。
- ●持続的な改善:計画策定で終わることがないよう、 計画に基づく改善状況の現地確認・評価などの フォローアップを行い、改善活動を継続しました。

## 【活動の成果】

●下表のように、5年間で多くの道路附属物の改善が完了

デザインの異なる重複看板(矢印)の撤去	17箇所
標識集約(支柱2本⇒支柱1本に集約)	20箇所
重複している警戒標識の撤去	3箇所
デザインの異なるシェブロンマーカーの交換	15箇所
景観面を配慮した看板(蛍光黄色)の交換	8箇所





▲改善前

▲改善後

- ●「秀逸な道」の本格導入前に、道路附属物についての景観改善は概ね完了
- ●「ルート景観づくりマスタープラン」の「景観課題箇所(附属物以外の課題)」についても 同様な方法によって持続的な改善を開始(平成30年度に現地視察会を開催)

## 部門賞 活力ある地域づくり部門候補〔エントリー 5件〕



## Scenic Byway HOKKAIDO

			Scenic Byway HOKKAIDO
No.	活動名 【ルート名】	点数	評価意見
	〜景観阻害物を撤去して再利用!〜 道路周辺等の雑木駆除を生かした観光振興プロジェクト 【支笏洞爺ニセコルート】	13	①付加価値をつけて商品化する努力、②ローカルデザインのプロとの連携アドバイスを期待・アイディアが良くまさに「三方よし(観光客、地域・道路、シーニック)」の取り組み。シーニックに関しては加工品の収益性が気になるところ。・景観改善での廃材を加工商品にした付加価値型再利用はグッドアイデア!・継続性も期待できるが、商品及び地域の幅を拡大する将来展開策も欲しい。・景観改善活動を地域づくりの活動と位置づけ、更に廃材を活用した商品開発なども地域の女性メンバーを取り込み実施していることを評価する。
2	ルート内道の駅スタンプラリー 【東オホーツクシーニックバイウェイ】	3	・もう一工夫を ・地道なプロジェクトであるが、プログラム内容と継続性を評価。 ・今後のPDCA体制の強化による効果測定の深度化と協賛者拡大活動を期待したい。
	ルート活動活性化のための組織づくり 【十勝シーニックバイウェイ トカプチ雄大空間】	11	①疲労しつつある組織の活性化活動(全ルートのモデル的な活動になることを期待) ・転換、新規性の導入に向けた真摯な活動 ・良い企画であり、必要性や横展開にも期待が持てるが、成果がまだ明らかでない。 ・SBWの活動も長期にわたり、ツーリズムを取り巻く諸環境も激変している中、ルート活動を見直し、活性化を求める動きは重要な視点であり、他ルートにも大きく影響を与えるテーマであるが、この内容はルート活動そのものであり、ベストシーニックの審査に馴染まない領域であると考える。よしんば、審査をするとしても、今後の結論が出てPDCAに沿った結果も明らかになったものを審査対象とすべきではないか。 ・組織の在り方、後継者育成は全ルートの課題であるが、なかなか真正面にとらえて、活動を開始・継続することは困難である。他のルートより先んじて、課題解決の道を歩んでいることを評価する。
4	地域資源の再発見〜100年後の未来に残す「道づくり」 【札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山渓ルート】	4	①活動に関わる多様なメンバー間での価値の共有化を試みたこと ・相互訪問による活動や状況の視察と意見交換は良いアイディア。効果についてもアピールしていただきたい。 ・地域資源の魅力発掘や訴求はルート活動の根幹(SBW北海道実施要領第1条目的)を成すもので、当プロジェクト審査に馴染まないものであると考える。他のルートを視察し、自ルートの魅力に気づき、100年後の未来に残す道づくりに思いが至ったのは慶賀に値し、敬意を表したい。
5	どうなん道の駅連携事業 【どうなん・追分シーニックバイウェイルート】	19	①道の駅との連携を試みたことは評価したいが、持続的で日常的な展開を期待・道の駅の連携の実績。他地域への展開のモデル・連携はなされつつあるようだが、まだ始まったばかり。セルフガイドのワーキング・サイクリングの基地に道の駅がなり、そこでの収益がシーニックに還元できれば良いなと思います。 ・北海道の誇る「道の駅」と今後のツーリズム素材として政府でも脚光を当てている「サイクルツーリズム」のコラボレーションは時宜を得た北海道らしいプロジェクトであると考える。これからの市場として「旅行離れが懸念されている若い人たち」、「自分で旅の行動が出来る人たち」、「興味の対象がどんどん広がってゆく外国人旅行客」、「スポーツ愛好家」の北海道への増加促進剤として期待される。 ・サイクルツーリズムへの取組と、道の駅の連携事業について評価する。道の駅を巻き込むことで、地域周遊促進の効果が図られ、地域の活性化につながる取組となったことは、全ルートの中での先進的と認められるのではないか。

## どうなん道の駅連携事業

エントリー部門

活力ある地域づくり

## ルート名称

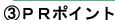
## どうなん・追分シーニックバイウェイルート

## ①活動概要

- ●活動の目的・目標:当ルートでは、フットパス事業・サイクルツーリズム事業を推進しており、それらの拠点となる「道の駅」をルート の強力な地域資源として、連携向上による更なる道の駅の質の向上とルート全体への周遊促進の活性化を図ることを目的に道の駅連携に 関する活動に取り組んでいます。
- ●活動内容:道の駅の連携をより高めるため、専門学識者に道の駅について視察して頂き、その結果を基に各自治体及び道の駅担当者と個 別ヒアリングやワークショップを開催し、今後の道の駅の連携に向けて情報交換を実施。サイクルツーリズム事業の推進については、 ルート内の道の駅と連携し、サイクルサインやラック等の整備により、道の駅でのサイクル環境の向上と情報発信の拡充を図った。冬期 の閑散期対策においては、道の駅等が連携したどうなん・追分シーニックdeナイトの取組の拡大を実施しました。
- ●活動期間:平成28年度~30年度

## ②活動の体制









専門学識者による道の駅視察 シーニックで活用しているサイク ルサインを利用



9町にサイクルサイン・サイクル ラック・空気入れ・簡易工具を設置

## 【苦労した点や工夫した点】

- 専門学識者の視察では、各道の駅の実施内容を道の駅管理者より、直接、説明を し、各道の駅での課題や改善点等について、御助言を頂ける環境を調整。
- ・シーニックdeナイト連携イベントは、より連携ができるよう、道の駅管理者等と 実施時期、会場の拡大に向けて調整を実施。

## 【活動の成果】

・シーニックdeナイト連携イベントは、道の駅「しりうち」、えさし海の駅開陽丸 を今年度に新たに参画して頂き実施。







12月23日に、道の駅みそぎの郷きこない、えさし海の駅海洋 丸等でシーニック deナイトを開催

- ワークショップにおいて、今年度の取り組みを通じ、ルート内の道の駅同士の関心が高まり、多くの意見が交わされ、点を線にして いくという意識の統一等が図られ、参加者から好評を得た。
- ・サイクルサイン・ラック・簡易工具を各道の駅等に設置したことにより、ルート内に自転車で巡る環境が確立された。

## 【今後の活動予定等】

道の駅が国道沿いにある恵まれた設置条件を活かして、更なる地域の拠点となるよう多様な連携を実施することによって、観光客だけで はなく、地域の方々にとってもスポーツやレクリエーションの拠点としても活用されるよう、今後も連携を継続していきます。

## 部門賞 魅力ある観光空間づくり部門候補〔エントリー 6件〕



## Scenic Byway HOKKAIDO

No.	活動名 【ルート名】	点数	評価意見
1	~ 支 笏 湖 一 体 の 持 続 的 な 発 展 に 向 け て ~ 国立公園満喫プロジェクト「おもてなしの地域づくり」 【支笏洞爺ニセコルート】	6	<ul> <li>・支笏エリアと洞爺エリアが二極化?ルート全体のマスタープランの再考と共有化を期待。</li> <li>・商品化と売る工夫を。</li> <li>・DMO組織の立ち上げを目指す取組みとして評価できるが、現在は次のステップへの「レンタサイクル事業」や「外国人旅行者向けアクティビティプログラム」の体制が整備できた段階なので、これからの実施経過や効果、事業化への道が見えて来てこない、いわば「絵に描いた餅」状態なので評点は付け難い。</li> <li>・新たなレンタサイクル事業の始動、外国人向けアクティビティプログラムの共同実施体制の確立など、地域全体の体制が整ったことを評価する。今後の活動に期待したい。</li> </ul>
2	道北シーニック連携フォトコンテストの開催 【大雪・富良野ルート/宗谷シーニックバイウェイ/萌える天北オロロンルート/天塩川シーニックバイウェイ】	11	・ルート間の周遊を促進するための優れたアイデア ・2ルート以上の写真のみ応募可能というアイディアの勝利。ルート間の連携へのあたらしい試みとして評価できる。 ・道北4ルート連携のプログラムであるが、毎年の応募数に凸凹があり、PDCA体制の未熟さを感じる。しかしながら将来性も十分感じられるので、右肩上がりの実績が常にキープできるよう連携事業の難しさを克服して効果測定、検証作業も、継続して欲しい。なお、地域の国際化を目指して「外国人部門」も追加してはどうか? ・4ルート連携により周遊性を促進した活動を評価する。今後は、他の取組もルート連携しておこない、道北の観光ルートとして確立していくことを目指してほしい。
3	包括連携企業や道の駅と連携したスタンプラリーの開催 【釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ】	6	・スタンプラリーの進化形。8年間の継続によるデータを活用して、減少傾向の原因究明ができないだろうか。 ・「道の駅」と「連携企業」巻込み型プログラム、毎年理由や事情の如何を問わず「右肩上り」実績を求められるのが連携事業の必須事項。 他のルートのモデルになるようPDCAを愚直に実行することが求められる。しかしながらルートの継続への努力と事業への意欲を感じる。
4	シーニックカフェの登録・カフェ連携の推進 【萌える天北オロロンルート】	5	・カフェ連携による大きな効果 ・もう一工夫を ・シーニックカフェ連携事業としてブランド化を目指す取り組みがユニークで評価できる。現在、実績や効果測定が 公表されておらず、今後の他ルートとの連携には不可欠。
5	フォトコンテスト事業 【十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート】	4	<ul><li>・写真の活用方法が弱いという印象</li><li>・2011年からの老舗とも言えるフォトコンテスト事業であるが、今流行のSNS、インスタグラム機能を取り入れた進化形のプログラム。</li><li>今後も工夫と新機軸で進化し続けることを期待したい。</li></ul>
6	「きた北海道エコ・モビリティ」の推進 R3モニターツアーの実施 【天塩川シーニックバイウェイ/宗谷シーニックバイウェイ】		①「道」、「川」、「鉄道」の連携によって地域価値を創出し、磨き上げようとするダイナミックさ。 ・地域特性を踏まえたR3というアイデアと実行力。 ・2ルート連携によるプロジェクトとして評価できる。観光MaaS、スイスモビリティなどへの展開も期待したい。 ・道路と河川、鉄道を繋いだユニークな新しいタイプのモニターツアーでアイデアと工夫豊かなプログラム。実施後の実績評価や効果測定を訊いてみたい。 ・TEPPEN-RIDE応援ツアーなどツアー造成が実際に商品化されたこと、JRとの連携の確立など、売り出しに必要な要件は整ったことを評価する。今後は更なるブラッシュアップと顧客拡大に向けた活動を期待したい。

「きた北海道エコ・モビリティ」の推進 R3モニターツアーの実施

<u>エントリー部門</u> 魅力ある観光空間づくり

## ルート名称

## 天塩川シーニックバイウェイ × 宗谷シーニックバイウェイ

## ①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

- ●目的・目標/体験型観光と個人旅行のニーズを含め、一次交通の衰退や二次交通の脆弱さを逆手に、地域にとってプラス に、地域資源に触れ・遊び・**移動そのものが観光**となる新しい旅のスタイル『**きた北海道エコ・モビリティ**』 を広域で連携・推進 ⇒スロウな旅が地域への滞在時間の長期化・経済効果・周遊性向上に繋がる。
- ●活動内容/R3モニターツアーの実施+q (TEPPEN-RIDEとバスツアー)

道 (Road = 自転車・歩く) と川 (River = カヌー) と鉄道 (Rail = JR 宗谷本線に乗車、駅弁) が並行する地 域性を活かして3つのRを繋ぎ、美しい景観を見て&自然に触れて遊び&美味しいものを味わいながら日本 のてっぺんを目指す旅を提供。過年度より実施している自転車だけで日本のてっぺんを目指すサイクリング イベントTEPPEN-RIDEとは違う楽しみ方で、地域をより深く知ってもらう。

そこで

## **く過年度までの参加者・その他意見より>**

- ★TEPPEN-RIDEをいつかは走りたい。けれど、全工程を走り切る自信 がない。けれど、てっぺんを目指したい。
- ★自分はTEPPENに参加したいが、家族で旅をしたいため、自転車だけ でないものがあるといい。
- ★地域資源に触れて遊びながら、地域の人と触れ合う時間がほしい。
- ★色んなアクティビティを楽しみ、ゆっくり巡りたい。
- ★TEPPENライダーたちを応援したい。

**⇒当エリアへ興味・関心**があり、**ツアーのニーズ**もあることを確認できた。

こちらの目的(目標)とニーズに合わせて

## 3種類のツアーを同時開催!

- ●自転車のみ=TEPPEN-RIDE
- ❷様々なアクティビティ+JR=R3モニターツアー
- **③**バスのみ=TEPPEN応援バスツアー
- ◎同じ出発地・到着地×3日間!
- ◎3種3様の異なる移動手段で 同じゴールを目指す!
- ◎毎日どこかのタイミングで合流!
- ●活動期間/2018年7月~2019年9月 <2017年度から「きた北海道エコ・モビリティ」の取組みを継続実施>
- ●活動範囲/きた北海道エリア(天塩川シーニックバイウェイ、宗谷シーニックバイウェイ、その他関係する近隣市町村)

## ②活動の体制

## ③ P Rポイント

## 実施主体 きた北海道エコ・モビリティ

天塩川シーニックバイウェイ (事務局) 宗谷シーニックバイウェイ

シーニックバイウェイ支援センター

## 〈協力・連携〉

常に密に情報共有

北海道エコ・モビリティ研究会/北海道のサイクル ツーリズム推進に向けた検討委員会/旭川開発建設 部/稚内開発建設部/JR北海道旭川支社/その他(団 体/自治体/企業等)

## 【総意工夫した点や苦労した点】

- ・JRとの協議を重ね、スムーズな移動手段を検討(既存列車の有効活用等)
- ・R3とバスツアーの立ち寄り箇所・体験メニューを毎日変え、各ツアーの 参加がお互いに体験したことを共有しあい、当エリアの様々な魅力を別の 角度から知れるような仕組みとした
- ・将来の自走を見据え、取り組みへの協賛を募り、広報媒体等でPRした
- ・道路(自転車/バス)と川からのアプローチ(カヌー):絶妙な場所の設定と時間調整
- ・3つのツアーが同時に進行のため、スタッフ間での情報共有を徹底

## 【活動による効果】

- ・JR(旭川支社)との連絡体制が確立/取組みへの理解が増した
- ・旅行会社で別途、TEPPEN-RIDE応援ツアーの企画・販売された
- ・協力企業(仲間)が増え、運営資金の確保に繋がった





▲JR宗谷本線に自転車積込:輪行







▲TEPPEN-RIDE参加者とバスツア



▼活動団体賞

「きた北海道エコ・モビリティ」の推進

Scenic Byway HOKKAIDO

〔エントリー17件〕

R3モニターツアーの実施 (天塩川シーニックバイウェイ

宗谷シーニックバイウェイ)

▼部門當

①景観づくり賞

〔エントリー3件〕

②地域づくり賞

〔エントリー5件〕

〔エントリー6件〕

道路景観の改善に向けた道路附属物の影響評価と改善

(釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ)

どうなん道の駅連携事業

(どうなん・追分シーニックバイウェイルート)

③観光空間づくり賞 「きた北海道エコ・モビリティ」の推進

R3モニターツアーの実施

(天塩川シーニックバイウェイ

宗谷シーニックバイウェイ)

▼最優秀賞「ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト」

ルート審査委員会から次のプロジェクトを推薦を拝受

- ⇒どうなん道の駅連携事業
- ■選出理由及び今後の発展に向けての期待

道の駅同士の連携のストーリーをシーニックが提供し、道の駅と連携することで、 地域周遊促進の効果が図られ、地域の活性化につながる取組となったことは、先進 的な取組であるとともに、他地域への展開モデルとなること、普遍性を有すること から評価。今後、他地域への波及及び持続的で日常的な取組として展開していくこ とを期待。

12

### 200 1											点	数									
1   1   2   1   1   3   4   3   3   3   4   3   3   3   3	NO	ルート名称	活動名称	А	В	С	D	Е	F	G	Н	I	J	К	L	М	N	0	合計	活動団体	コメント (評価できる点、食かった点など)
### 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	1	東オホーツクシーニックバイウェイ	シーニックデッキの設置										1	3					4		<ul><li>・観光客の立場に立った、観光をゆっくり楽しむための、観光PRのためのツールに評価。</li><li>・素敵な景色に癒されながら飲むお茶は美味しいことでしょう。ぜひ行ってみたいと思います。</li></ul>
■ 選択の他のようでは、これではないとは、これでは、「おおります」では、「おります」では、「おおります」では、「おおります」では、「おおります」では、「おおります」では、「おおります」では、「おおります」で	2	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ							1			1	1		1				4		- 明確な時限計画に基づき景観改善が概ね完了したことが評価できる。今後の付属物以外の景観課題箇所についても期待する。 - 目標と計画策定により徐々であるが着実な成果が得られ今後の道路景観づくりへの指針となる - 人口造作物で、きれいな景観を損ねている現実をすこしずつ改善した事。
・	3		15年目~	5	5							1		2	1	1		4	19		- 10年を超える活動が地域に定着して、親子二世代での参加や1000名を超える参加など、活動が継承され持続性のある活動となっている点 ・ 若年層を取り入れ未来ある活動をしている点。 - 15年間という継続力が素晴らしい! 20年、30年を目指して函館の玄関を明るくし続けてほしいと思います。 - 1つの取組に対する継続性 - 15年継続して取り組む持続性。地域、企業との連携性も素晴らしい。 - 子どもたちと共に未来に繋がる活動が素晴らしい。また、地域で活動している中で、15年活動を継続すること、沿線の企業や学校、住民を巻き込むことはス当に大変で、それを実現されていること、そして何より、花壇の花の成長に驚いた、丁寧にお世話をしていなければこの様にな元気なお花は見られないと思
中華	4	支笏洞爺ニセコルート				3	2	3	3		2	1				2	4	1	21		・道路景観の向上には大変評価できるが、自然的ななりわいもまた魅力かも・・・ ・景観向上のため駆除した増木が、加工品となって地域活動に還元される循環型の取組は大変評価でき、他ルートでも取り組める拡張性がある。 ・モノづくりの活動として地元に還元される事業なのがよい。親光客をとどまらせる効果がある。 ・地域資源(人・もの等)のリユース・リサイクルおよび高付加価値化の実現した。 ・枝打ちした胡桃の枝等を杖に加工し、観光客から好評を得ている点が評価される。 ・一見地味な活動であるが、景観改善に「地域資源の活用という視点」を兼ね備えた、素晴らしい活動と感じた。当ルートでも参考にしたい。
日本ビー・ウバイウェイトアブラルな変	5	東オホーツクシーニックバイウェイ	ルート内道の駅スタンプラリー										1						1		
(	6	十勝シーニックバイウェイ トカプチ雄大空間	ルート活動活性化のための組織づくり				3	2					2						7		・組織の活性化はどの分野でも必要であり、一早く着手した点を評価する。 ・なかなかまとめることが難しい現状のを打破し、新しいルート組織作りの好事例。
■ 製造の チャーツリー・つかけくりて	7	札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山渓ルート	地域資源の再発見~100年後の未来に残す「道づく り」					4			2				2				8		▶・100年後の未来に残すための取り組みが、息の長い活動になるよう応援しています。
「	8	どうなん・追分シーニックバイウェイルート	どうなん道の駅連携事業																0		그 그 수 나 나 나 그 그 수 나 가 다 나 가 다 가 가 가 가 가 가 가 가 가 가 가 가 가 가
	9	層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ	フォトラリーの開催			1							1						2		
	10	空知シーニックバイウェイ -体感未来道 -	~これからの空知を考える~地域創生フォーラム													2			2		
大連 直 2 1 1 1 1 2 2 3 1 1 1 1 2 2 3 1 1 1 1 2 2 3 1 1 1 1	11)	支笏洞爺ニセコルート					5	1	3	2	2	1			2	5		1	22		ビティなど着眼点が良い。 ・国立公園支笏湖を、自然と共生する観光地を目指して組織体制を構築し、インパウンド対応のプログラム開発や、地域が一丸となって取り組む姿勢は大しに評価でき、先進性がある。 ・インパウンドの受け入れ態勢は、様々な地域で研究や活動展開がなされてきているが、実態として定着と地元の受け入れがうまくいっているところとそうでいところの格差があり、この取り組みは北海道(当ルート)の良さを満喫することでお手本となる。またDMOの検討も良い・世界水準を目指す意識と多様なステークホルダーの協議のしくみとしてのDMO体制の確立は他地域の見本となる ・魅力ある観光空間づくりとしてとても参考になった。 ・インパウンドをターゲットとした現在のニーズに即した取り組み
日 銀路温原・阿本・藻樹シーニックバイウェイ	12)	イ/萌える天北オロロンルート/天塩川シー	道北シーニック連携フォトコンテストの開催	2		2								2			3	1	10		<ul> <li>事業の連携は、活動する人達の絆も深くなることでしょう。楽しいので審査委員をやってみたいです…。</li> <li>・ブロック単位での広域連携を継続して行っている点が評価される。</li> <li>・4ルートの広域連携によるスケールの大きさ、継続活動が素晴らしい。「炭・鉄・港」など当ルートので広域活動の参考にしたい。</li> </ul>
1 5 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	13)	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	包括連携企業や道の駅と連携したスタンプラリーの 開催		2				1	3	3		1						10		・道北4ルート連携によるスタンプラリーの取り組みは、他ルートにおいても実現可能であり評価できる。 ・カフェ連携の先駆的な地域にあって、8年間の継続というのはとても素晴らしい。来訪者へのホスピタリティとしても足元を見つめたペーシックな活動展開であり、他ルートの手本となる取り組みと評価できる。 ・計画策定で終わらずPDCAサイクルを用いながら持続的な改善を継続している
日	14)		シーニックカフェの登録・カフェ連携の推進						<u> </u>					<u> </u>					0		・インスタグラムでの新しい応募方法を取り入れた事。
・地域展開の解決を体験登録を通じて取り組み、2ルートによる加速構作圏り、開発性向上の参考となる取植である。また、関係機関との関格 連携 が地域の特性を活かしたソフー内容を、さらに参加者の目的に一スに合わせる工夫をするなど適年限の経験があされ、新たなに接少アーの企画。 されるなど浸透されるから、	15)		フォトコンテスト事業			1							3					1	5		・インスタグラムを活用し、若年層にも参加しやすい仕組みの構築が素晴らしい。当ルートのでも参考にしたい。
励  空知シーニックバイウェイ−体感未来道−	16			3	3	3			2	5		5			2		3	2	28	0	・地域課題の解決を体験型観光を通じて取り組み、2ルートによる広域連携を図り、周遊性向上の参考となる取組である。また、関係機関との調整・連携に力され、民間企業との今後の連携に期待できる取組である。 ・地域の特性を活かしたツアー内容を、さらに参加者の目的とニーズに合わせる工夫をするなど過年度の経験が活かされ、新たな応援ツアーの企画・販売されるなど浸透性がある。 ・エコモビリティの活動が地域に定着することにより道北地区の魅力が、よりスロウに発揮できる素晴らしい取り組みだと感じた。3つのRとして掛け合わせかこれからの広がりに大きな可能性を見出せる。 ・「R3ツアー」と銘打った、JR・バス・カヌーなど思いもよらぬ移動手段を総動員するアイディアが素晴らしい。事前の打ち合わせ、ツアー当日のスタッフ間の付報共有等、非常にご苦労されたと思うが、プロジェクトの概要から溢れる熱意を感じた。ツアーへの参加方法も多様な要望に応えられるものになっていて、地域の魅力を存々な切り口からPR出来ている。 ・非常に魅力的なツアーを実施されているな、と感じた。 ・PR文章を読んでいて、R3モニターツアーに思わず参加したくなった。 ・直接経済に結びついている。 ・インパクトがある。 ・新規性、話題性がある。 ・当ルートにとっても同問題でサイクルツーリズムを推進しており、とても学ぶところが多かった。 ・モニターツアー実施等着実なプロジェクト進捗・モニターツアーの効果を評価。 ・地域のモビリティの課題をアクティビティとして楽しむ逆転の発想が素晴らしい。自転車、カヌー、鉄道の活用など、当ルートでもぜひ参考にしたい。今後、ミルートで活動でも連携の可能性を模索していきたい。
・ 当ルートも道の駅を活用したサイクルツーリズムに取り組んでおり、とても親近感を持ち参考になった。	17)	空知シーニックバイウェイ-体感未来道-	"道の駅"からはじまる"空知サイクルツーリズム"								1	1		3	2				7		・サイクリストの立場に立った愛のある活動が素晴らしいと思います。

<エントリー部門:①美しい景観づくり>

	) ルート名称	活動名称			点	数			如明学	コメント
IN	ルート名称	<b>冶</b> 期名 <b></b>	Α	В	C	D	E	合計	部門賞	(評価できる点、良かった点など)
	東オホーツクシーニックバイウェイ	シーニックデッキの設置	2	2	3	2	2	11		①持続的な活動、②今後、若手人材(活動団体)との連携を期待。 ・新規出店への努力 ・シーニックデッキの着実な増加と活用が素晴らしい。 ・常設マルシェの他、他との差別化内容が不明確。 ・集客・利用度等実績把握や評価測定が出来たいるのかどうかが不明。 ・景額の良いときにマルシェを開催して、ルートの認知度を上げ顧客拡大を展開している点、また、マルシェ開催が継続して行われ、更に出店者が増え続けていることを評価する。今後もプランド認知度を深めて欲しい。
:	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックパ イウェイ	道路景観の改善に向けた道路附属物の影響評価と改善	3	6	4	5	5	23		①「マスタープラン」を持っていること、②マスタープランV2の策定を期待 ・5年間のPDCAの徹底。大きな成果 ・3者とも素晴らしいが、少しだけリード?5年間と時限を決めたことが高く評価できる。成果も着実に上げている。 ・継続的なPDCA体制構築意欲は評価できる。 ・マスタープランの次年度以降の具体的将来像が不明確。 ・道路景観改善に向けた本格的な取組の持続的な活動と、景観改善のモデルとなる取組を評価する。とりわけ計画策定で終わらない仕組み構築を評価する。
;	函館・大沼・噴火湾ルート	~北海道命名150年の年に「はこだて花かいどう」が15年目 ~ 函館新道「花いっぱい活動」植栽活動	5	2	3	3	3	16		①持続性、②活動組織の連携、③期待すること(活動の広がりを期待) ・継続性 ・圧倒的なポリュームによる効果は大きい。継続による地域活動としての幅広い定着も良い。 ・多くの関係者を巻き込み、長期にわたる全参加型のおもてなし体制は好評価。 ・これによる効果測定のうち実際の来訪者の評価測定がより活動のグレードアップ化、継続性の確保が可能になると思われる。 ・15年という歳月をかけて取り組んでいること、また、地域の小学生から大人まで巻き込んで地域全体の活動として定着していることを評価する。

<エントリー部門:②活力ある地域づくり>

NO ルート名称	活動名称			点	数			如明学	コメント
NO ルート名称	活動名称	Α	В	С	D	E	合計	部門賞	(評価できる点、良かった点など)
1 支笏洞爺ニセコルート	~景観阻害物を撤去して再利用!~ 道路周辺等の雑木駆除を生かした観光振興プロジェクト	2	1	5	3	2	13		①付加価値をつけて商品化する努力、②ローカルデザインのプロとの連携アドバイスを期待 ・アイディアが良くまさに「三方よし(観光客、地域・道路、シーニック)の取り組み。シーニックに関しては加工品の収益性が気になるところ。 ・景観改善での廃材を加工商品に上た付加価値型再利用はグッドアイデア! ・継続性も期待できるが、商品及び地域の幅を拡大する将来展開策も欲しい。 ・景観改善活動を地域づくりの活動と位置づけ、更に廃材を活用した商品開発なども地域の女性メンバーを取り込み実施していることを評価する。
2 東オホーツクシーニックバイウェイ	ルート内道の駅スタンプラリー	0	1	0	2	0	3		・もう一工夫を ・地道なプロジェクトであるが、プログラム内容と継続性を評価。 ・今後のPDCA体制の強化による効果測定の深度化と協賛者拡大活動を期待したい。
3 十勝シーニックバイウェイ トカプチ 雄大空間	ルート活動活性化のための組織づくり	3	3	2	0	3	11		①疲労しつつある組織の活性化活動(全ルートのモデル的な活動になることを期待) ・転換、新規性の導入に向けた真摯な活動 ・良い企画であり、必要性や横展開にも期待が持てるが、成果がまだ明らかでない。 ・SBWの活動も長期にわたり、ツーリズムを取り巻く諸環境も激変している中、ルート活動を見直し、活性化を求める動きは重要な視点であり、他ルートにも大きく影響を与えるテーマであるが、この内容はルート活動そのものであり、ベストシーニックの審査に馴染まない領域であると考える。よしんば、審査をするとしても、今後の結論が出てPDCAに沿った結果も明らかになったものを審査対象とすべきではないか。 ・組織の在り方、後継者育成は全ルートの課題であるが、なかなか真正面にとらえて、活動を開始・継続することは困難である。他のルートより先んじて、課題解決の道を歩んでいることを評価する。
4 札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山渓ルート	地域資源の再発見~100年後の未来に残す「道づくり」	2	1	1	0	0	4		①活動に関わる多様なメンバー間での価値の共有化を試みたこと ・相互訪問による活動や状況の視察と意見交換は良いアイディア。効果についてもアピールしていただきたい。 ・地域資源の魅力発掘や訴求はルート活動の根幹(SBW北海道実施要領第1条目的)を成すもので、当プロジェクト審査に馴染まないものであると考える。 他のルートを視察し、自ルートの魅力に気づき、100年後の未来に残す道づくりに思いが至ったのは慶賀に値し、敬意を表したい。
5 どうなん・追分シーニックパイウェ イルート	どうなん道の駅連携事業	3	4	2	5	5	19	0	①道の駅との連携を試みたことは評価したいが、持続的で日常的な展開を期待 ・道の駅の連携の実績。他地域への展開のモデル ・連携はなされつつあるようだが、まだ始まったばかり。セルフガイドのワーキング・サイクリングの基地に道の駅がなり、そこでの収益がシーニックに還元できれば良いなと思います。 ・北海道の誇る「道の駅」と今後のツーリズム素材として政府でも脚光を当てている「サイクルツーリズム」のコラボレーションは時宜を得た北海道らしいプロジェクトであると考える。これからの市場として「旅行離れが懸念されている若い人たち」、「自分で旅の行動が出来る人たち」、「興味の対象がどんどん広がってゆく外国人旅行客」、「スポーツ愛好家」の北海道への増加促進剤として期待される。 ・サイクルツーリズムへの取組と、道の駅の連携事業について評価する。道の駅を巻き込むことで、地域周遊促進の効果が図られ、地域の活性化につながる取組となったことは、全ルートの中での先進的と認められるのではないか。
6 層雲峡・オホーツクシーニックバイ ウェイ	フォトラリーの開催								・積み重ねて、新しい独自の試みもぜひ。 ・若い人たちに人気のインスタグラムが活用できる新しい形のスタンプラリーであるが、訴求上のインパクトと効果測定が甘いように感じる。
7 空知シーニックバイウェイ -体感未 来道 -	~これからの空知を考える~地域創生フォーラム								・キックオフとしては素晴らしい。今後の活動に具体的に生かしていただきたい。 ・空知地域の経済活性化へ向けた危機感と意欲が伝わってくる応援したくなるプログラム。継続性、効果測定とその活用、景観資源を如何に集客・収入に結び付けるかの 官・産・学・住民のコラボレーションが重要かと思われる。

<エントリー部門:③魅力ある観光空間づくり>

									くエントリー部門:③魅力ある観光空間づくり>
NO 11 1 2 Th	エチャン			点	数			477 BB 244	コメント
NOルート名称	活動名称	Α	В	С	D	Е	合計	部門賞	(評価できる点、良かった点など)
1 支笏洞爺ニセコルート	~支笏湖一体の持続的な発展に向けて~ 国立公園満喫プロジェクト「おもてなしの地域づくり」	2	0	1	0	3	6		・支笏エリアと洞爺エリアが二極化?ルート全体のマスタープランの再考と共有化を期待。 ・商品化と売る工夫を。 ・DMO組織の立ち上げを目指す取組みとして評価できるが、現在は次のステップへの「レンタサイクル事業」や「外国人旅行者向けアクティビティプログラム」の体制が整備できた段階なので、これからの実施経過や効果、事業化への道が見えて来てこない、いわば「絵に描いた餅」状態なので評点は付け難い。 ・新たなレンタサイクル事業の始動、外国人向けアクティビティプログラムの共同実施体制の確立など、地域全体の体制が整ったことを評価する。今後の活動に期待したい。
大雪・富良野ルート/宗谷 クバイウェイ/萌える天北 ルート/天塩川シーニック イ	オロロン・メルシュールを本様コーレーンニューの眼が	1	2	4	1	3	11		・ルート間の周遊を促進するための優れたアイデア ・2ルート以上の写真のみ応募可能というアイディアの勝利。ルート間の連携へのあたらしい試みとして評価できる。 ・道北4ルート連携のプログラムであるが、毎年の応募数に凸凹があり、PDCA体制の未熟さを感じる。しかしながら将来性も十分感じられるので、右肩上がりの実績が常に キープできるよう連携事業の難しさを克服して効果測定、検証作業も、継続して欲しい。なお、地域の国際化を目指して「外国人部門」も追加してはどうか? ・4ルート連携により周遊性を促進した活動を評価する。今後は、他の取組もルート連携しておこない、道北の観光ルートとして確立していくことを目指してほしい。
3 釧路湿原・阿寒・摩周シー・イウェイ	ニックバ 包括連携企業や道の駅と連携したスタンプラリーの開催	1	1	2	2	0	6		・スタンプラリーの進化形。8年間の継続によるデータを活用して、減少傾向の原因究明ができないだろうか。 ・「道の駅」と「連携企業」巻込み型プログラム、毎年理由や事情の如何を問わず「右肩上り」実績を求められるのが連携事業の必須事項。他のルートのモデルになるよう PDCAを愚直に実行することが求められる。しかしながらルートの継続への努力と事業への意欲を感じる。
4 萌える天北オロロンルート	・・・・シーニックカフェの登録・カフェ連携の推進	1	2	1	1	0	5		・カフェ連携による大きな効果 ・もうーエ夫を ・シーニックカフェ連携事業としてブランド化を目指す取り組みがユニークで評価できる。現在、実績や効果測定が公表されておらず、今後の他ルートとの連携には不可欠。
5 十勝シーニックバイウェイ野・山麓ルート	十勝平 フォトコンテスト事業	1	1	0	2	0	4		・写真の活用方法が弱いという印象 ・2011年からの老舗とも言えるフォトコンテスト事業であるが、今流行のSNS、インスタグラム機能を取り入れた進化形のプログラム。今後も工夫と新機軸で進化し続けること を期待したい。
6 天塩川シーニックパイウェ 谷シーニックパイウェイ	・イ/宗 「きた北海道エコ・モビリティ」の推進 R3モニターツアー の実施	. 4	4	2	4	4	18	1	①「道」、「川」、「鉄道」の連携によって地域価値を創出し、磨き上げようとするダイナミックさ。 ・地域特性を踏まえたR3というアイデアと実行力。 ・地域特性を踏まえたR3というアイデアと実行力。 ・2ルート連携によるプロジェクトとして評価できる。観光MaaS、スイスモビリティなどへの展開も期待したい。 ・道路と河川、鉄道を繋いだユニークな新しいタイプのモニターツアーでアイデアと工夫豊かなプログラム。 実施後の実績評価や効果測定を訊いてみたい。 ・TEPPEN-RIDE応援ツアーなどツアー造成が実際に商品化されたこと、JRとの連携の確立など、売り出しに必要な要件は整ったことを評価する。今後は更なるブラッシュアップと顧客拡大に向けた活動を期待したい。
7 空知シーニックバイウェイ- 来道-	-体感未 "道の駅"からはじまる"空知サイクルツーリズム"								<ul><li>・複数の道の駅の連携も視野に入れていただきたい。</li><li>・道の駅を起点にした資源共用型のサイクルツーリズム。これも実績評価や効果測定が待たれる。</li></ul>

## ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2018実施要領

## 1. 目的

シーニックバイウェイ北海道の推進に向けて、他の模範となるルート活動の積極的な創出、 啓発・普及を目的とする。

## 2. 表彰

大賞1件(指定ルートを対象) 部門賞の中から大賞を1件選出

部門賞3件(指定ルートを対象)

**<エントリー部門>** 

- ①美しい景観づくり賞
- ②活力ある地域づくり賞
- ③魅力ある観光空間づくり賞
- ※部門賞は、部門毎に1件とし最大3件とするが、評価の結果によってはこの限りではない。

活動団体賞1件(指定・候補ルートを対象)

## 3. 応募要件

応募の対象となる活動は次の条件に該当するものとする。

- (1) 指定ルートの場合
  - ①それぞれのルート運営活動計画にもとづき実施し、2年以上の実績を有する活動を対象とする。
  - ②過年度に「最優秀賞」を受賞した活動は応募不可とする。なお、最優秀賞以外の賞を受賞した活動は、再度の応募登録が可能とするが、選定にあたっては、前回からの改善、向上等が認められることを必要とする。
- (2) 候補ルートの場合
  - ①ルート登録以前から継続実施している活動も可とする。
  - ②過年度に受賞した活動は、再度の応募登録が可能とするが、選定にあたっては、前回からの改善、向上等が認められることを必要とする。
- ※応募件数は、各ルート<u>『2プロジェクト</u>』程度とする。なお、<u>1部門につき1件の応募</u>とする。

## 4. 応募期間

平成31年 3月18日(月)~平成31年 4月24日(水)

## 5. 応募様式

- ・取り組みの概要について説明資料を別紙1の様式をもとに作成する。
- 活動団体はエントリー部門を自ら選択の上、プロジェクトを登録

#### (記載事項)

- i)活動名称、エントリー部門、ルート名称
- ii) 活動概要(目的・目標、活動内容、具体的な取組、活動期間等)
- iii) 活動体制 (活動団体、人数、体制図等)
- iv) PRポイント(総意工夫した点、苦労した点、活動による効果等)

## 6. 選定方法

- ①部門賞・・・・ルート審査委員の投票による選定
- ・ルート審査委員は各部門毎に上記視点を踏まえて登録プロジェクトを評価の上、持ち点 10点の自由配分方式で配点する。
- ・集計の上、最多得票を得たプロジェクトを各部門の部門賞とする。
- ② 大賞・・・・ルート審査委員による選定
  - ・3点の部門賞プロジェクトを対象に、ルート審査委員会において総合的に判断し、大賞を決定する。
  - ※ 各部門における登録プロジェクト数の多少により得点の大小も左右されるため、得点のみによる決定は行わない。
- ③ 活動団体賞・・・・各ルートの投票による選定
  - ・各ルートは、自ルート以外に登録された全プロジェクトに対し自らの価値観で評価するプロジェクトを、持ち点10点の自由配分方式で配点する。
  - ・集計の上、最多得票を得たプロジェクトを活動団体賞とする。

## 7. 評価の視点

<u>地域の資源を発見・活用し、有形・無形の「新しい価値」を生み出しているか否か</u>に評価 の軸を置くと共に、以下の点に留意し、プロジェクトの評価を行う。

### <部門賞及び大賞>

- 持続性(取組の継続性の程度を評価)
- 浸透性(地域内への広がりの程度を評価)
- 拡張性(モデルケースとしての地域外へ展開の程度を評価)
- 連携性(地域同士や他団体との連携の程度を評価)
- 先進性(新しいものに取組んでいく姿勢の程度を評価)
- 効果性(定量的・定性的な効果の程度を評価)
- 〇 人材育成
- ※ 上記全ての網羅を条件とするものではなく、各指標の重み付けも固定されているものではない。

## 8. 各賞決定までの流れ(スケジュール)

別紙2のとおり

## ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト2018 応募一覧

NO	ルート名称	活動名称	エントリー部門	活動年数
1	東オホーツクシーニックバイウェイ	シーニックデッキの設置	①美しい景観づくり	14年 (H17~H30)
2	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	道路景観の改善に向けた道路附属物の影響評価と改善	①美しい景観づくり	6年 (H25~H30)
3	函館・大沼・噴火湾ルート	〜北海道命名150年の年に「はこだて花かいどう」が15年目〜 函館新道「花いっぱい活動」植栽活動	①美しい景観づくり	15年 (H16~H30)
4	支笏洞爺ニセコルート	~景観阻害物を撤去して再利用!~ 道路周辺等の雑木駆除を生かした観光振興プロジェクト	②活力ある地域づくり	4年 (H27~H30)
5	東オホーツクシーニックバイウェイ	ルート内道の駅スタンプラリー	②活力ある地域づくり	7年 (H24~H30)
6	十勝シーニックバイウェイ トカプチ雄大空間	ルート活動活性化のための組織づくり	②活力ある地域づくり	2年 (H29~H30)
7	札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山渓ルート	地域資源の再発見~100年後の未来に残す「道づくり」	②活力ある地域づくり	3年 (H27, H29~H30)
8	どうなん・追分シーニックバイウェイルート	どうなん道の駅連携事業	②活力ある地域づくり	3年 (H28~H30)
9	層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ	フォトラリーの開催	②活力ある地域づくり	3年 (H28~H30)
10	空知シーニックバイウェイ -体感未来道 -	~これからの空知を考える~地域創生フォーラム	②活力ある地域づくり	3年 (H28~H30)
11	支笏洞爺ニセコルート	~支笏湖一体の持続的な発展に向けて~ 国立公園満喫プロジェクト「おもてなしの地域づくり」	③魅力ある観光空間づくり	2年 (H29~H30)
12	大雪・富良野ルート/宗谷シーニックバイウェイ/萌える天北オロロン ルート/天塩川シーニックバイウェイ	道北シーニック連携フォトコンテストの開催	③魅力ある観光空間づくり	4年 (H27~H30)
13	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	包括連携企業や道の駅と連携したスタンプラリーの開催	③魅力ある観光空間づくり	8年 (H23~H30)
14	萌える天北オロロンルート	シーニックカフェの登録・カフェ連携の推進	③魅力ある観光空間づくり	5年 (H26~H30)
15	十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート	フォトコンテスト事業	③魅力ある観光空間づくり	8年 (H23~H30)
16	天塩川シーニックバイウェイ/宗谷シーニックバイウェイ	「きた北海道エコ・モビリティ」の推進 R3モニターツアーの実施	③魅力ある観光空間づくり	4年 (H27~H30)
17	空知シーニックバイウェイ-体感未来道-	"道の駅"からはじまる"空知サイクルツーリズム"	③魅力ある観光空間づくり	2年 (H29~H30)



## 応募プロジェクト一覧



ベスプロ2017 最優秀賞 支笏洞爺ニセコルー<u>ト</u>

『〜地域・電線管理者と連携した 「電線の見えない化」〜ビューポイント パーキングの景観改善(電線移設)』

シーニックバイウェイ北海道推進協議会

ベストシーニックバイウェイズプロジェクト2018

## ① 美しい景観づくり





- 1. シーニックデッキの設置(東オホーックシーニックバイウェイ)
- 2. 道路景観の改善に向けた道路附属物の影響評価と改善 (釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ)
- 3. ~北海道命名150年の年に「はこだて花かいどう」が15年目~ **函館新道「花いつぱい活動」植栽活動**(函館・大沼・噴火湾ルート)

#### -ニックデッキの設置 活動名 称

#### エントリー部門

## 美しい景観づくり

#### 東オホーツクシーニックバイウェイ ルート名称

## ①活動概要

▶活動の目的・目標:

景観の良い駐車スペースのあるポイントに、シーニックデッキを設置し旅行者などがゆっくりと景色を眺め休憩する事により、東オホーツク地域全体の景観PRをはじめ地域との交流を促進します。また、農産物等の特産品販売等、コミュニティビジネスの創出の可能性も高 め、更に道路利用者のオアシスとして交通安全に寄与させます。

●活動内容:

- (斜里) の他、 あばしりフロックス公園、 常設されているウトロポケットパ--ベーカリ-メルヘンの丘(女満別) **(ウトロ)、コスモスロード(上斜里)、コミット(清里)、斜里岳山小屋清岳荘(清里)、小清水リリーパークに置いて地域交流、** 良好景観鑑賞用のウッドデッキを春~秋にかけて設置しています。また、 シーニックデッキの周知徹底のため、通常設置している数 カ所から人の多く集まる箇所にデッキを集約し、『シーニック・マルシェ』を開催しています。

●活動期間

平成17年度~(マルシェは上斜里コスモスロードでの試行を含め平成19年度~)

#### ②活動の体制

人数、体制図等 ●活動団体、

【デッキ設置・撤去】網走市観光協会、小清水町観光協会、東藻琴観光協会、 清里町商工会. きよさと観光協会、 上斜里フラワーロード推進協議会、清里町花と緑と交流のまちづくり 委員会、知床斜里町観光協会

【マルシェ】上記の活動団体の他、ルート内の農商工業者(出店者。10団体/年程度)

## ③PRポイント

●創意工夫した点

利用促進のため、マルシェやルートマップ、HPやSNSを活用してルート内外への 取り組みと設置場所・時期の周知を行ないました。

●苦労した点

メンバーも高齢化しているため、マルシェ時の重いデッキやテント等の移動や補修時 のデッキの移動が大きな負担となっています。地元建設業関係者やルート担当にも協力 頂いていますが、今後マルシェ出店者にもマルシェ時の移動には協力頂く等の対応を行 っていければと考えております。

●活動による効果

ルート内の新たな景観資源となりました。マルシェの実施により、ルート内でのシーニ ックの認知度向上、濃商工業者の新たな販売機会を創出することができました。

●ベスト・シ--ニックバイウェイズ・プロジェクト2015受賞 (美しい景観づくり賞) からの 改善点

近年売上の多いウトロ、パパス (清里) のマルシェを中心にルート内他地域も含めた新

たな出店者への呼びかけを強化し、斜里・清里・網走から3者の新規出店を行うことができた。シーニックマルシェ(道の駅ウトロ・シリエトク)



-ニックデッキ(清里町上斜里)



ベストシーニックバイウェイズプロジェクト2018

道路景観の改善に向けた道路附属物の影響評価と改善 活動名称

エントリー部門

美しい景観づくり

#### 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ ルート名称

### ①活動の概要

- ●活動の背景と目標:「ルート景観づくりマスタープラン」は、ルートが誕生した平成20年に策定しました。活動団体、 地域住民の高い意識で計画を策定したものの、フォローアップを行う持続的な仕組みが構築されておらず、思うよう に改善が進んでいませんでした。シーニックバイウェイの源流である「景観の持続的な改善」が活動の目標です。
- ●活動概要:「ルート景観づくりマスタープラン」の各景観課題は、それぞれ改善の優先度が異なるため、始めに現地視 察を実施し、<mark>優先度を評価</mark>した上で、**中期的な時限計画とフォローアップ体制を再構築**し、景観改善を行いました。
- ●活動場所:釧路湿原・阿寒・摩周シ―ニックバイウェイの主要ル―ト(R240、R241、R243、R272、道道中標津標茶線)
- ●活動期間:平成25年度)現地視察による改善優先度の評価⇒時限的(5年間)な道路附属物の適正化年次計画を策定

平成26年度~平成30年度)優先度に応じた附属物の適正化の依頼⇒改善結果の確認・評価⇒次年度目標の設定

## 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックパイウェイ ルート書観づくりマスタープラン

鎖路屋原・阿寒・摩周シーニックパイウェイ ルート運営代表者会議

#### ②活動の体制と実施手順

## Ⅰ)現地視察会での評価(平成25年9月19日) 道路附属物による景観阻害状況を視察し、改善の 優先度、必要性をSBW・住民、道路管理者で評価









#### Ⅲ)持続的改善とフォローアップ ■H26~H29 Plan:優先度に Do: 可能な範囲で (SBW·開建本部) 付属物の適正化 (開建本部・事務所) Action:改善計画の 再検討·課題整理 Chech: 現地確認と (SBW·開建本部) 改善結果の評価 (SBW·開建本部)

更新・補修時の対応箇所を整理

∖改善後

## ③PRポイント

- ●現地視察による優先度評価:全課題箇所の改善は 難しいため、始めに現地視察を行い、優先的箇所、 急がない箇所、改善不要箇所を明確にしました。
- ●目標の明確化:計画策定が目標ではなく、実際の 改善が目標であることを明確にするため、5年間の 年次計画を定めて、景観改善を目指しました。
- ●持続的な改善:計画策定で終わることがないよう、 計画に基づく改善状況の現地確認・評価などの フォローアップを行い、改善活動を継続しました。

## 【活動の成果】

下表のように、5年間で多くの道路附属物の改善が完了 デザインの異なる重複看板(矢印)の撤去 17箇所

□: 優先度が高いと考えられる書詞 □: 優先度が中程度と考えられる書詞 □: 優先度が他にと考えられる書詞

- 20箇所 標識集約(支柱2本⇒支柱1本に集約) 重複している警戒標識の撤去 3箇所 デザインの異なるシェブロンマーカーの交換 15箇所 景観面を配慮した看板(蛍光黄色)の交換 8箇所
- ▲改善前 ●「秀逸な道」の本格導入前に、道路附属物についての景観改善は概ね完了
- ●「ルート景観づくりマスタープラン」の「景観課題箇所(附属物以外の課題)」についても 同様な方法によって持続的な改善を開始(平成30年度に現地視察会を開催)

~北海道命名150年の年に「はこだて花かいどう」が15年目~ 函館新道「花いっぱい活動」植栽活動

美しい景観づくり エントリー部門

函館・大沼・噴火湾ルート ルート名称

## ①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

- ●活動の目的・目標:・道ゆくドライバーや函館を訪れた国内外の観光客の方々に「綺麗なお花」 を見て、旅の疲れを癒し、喜んでもらいたいという<u>おもてなしの取組み</u>。 加えて、道路管理者及び沿道の民間企業等とも連携し、綺麗な道の維持
- 管理活動等を通じて、**ボランティアの相互協力関係の構築**を目的とする。
- ●活動内容:①植樹桝の土起こし(毎年、5月下旬) ②植樹桝への植栽(毎年6月の第2土曜日)

  - ③植樹桝の草取り・水やり (毎月第2土曜日 ※月1~2回)
  - ④花の撤去活動(毎年10月の第4日曜日)
- ●活動期間:平成16~30年度 ※北海道命名150年の年に15年目
  - ・実施場所:国道5号 函館新道インターチェンジ付近の植樹桝



【総意工夫した点や苦労した点】

- ・函館の玄関口でもあり地域としても大切な場所である函館新道の価値を 高めるべく、10年を越えて継続的に国道沿道の維持管理活動を実施したこと。
- ·地域·民間企業·道路管理者等の連携体制が十分に図られていた。
- ·事務局が個別に小中高校を訪問し、熱意を伝えたことで多くの参加に繋がった。
- 協力企業等を掲載した統一看板を設置することで協力体制の見える化が図られ、 出資企業が増加し、企業のイメージアップと資金収集に繋がった。

【活動による効果】

- ・夏期(5~10月)だけではなく、冬期(2月)は函館新道沿線をキャンドルで彩る 「シーニックdeナイト」にも発展し、<u>年間を通じた沿線の美化活動に貢献</u>。
- ・活動参加者の継承(中学生が親世代となり親子二代で参加)と地域愛着の醸成。
- ・民間企業(スーパー、大型量販店等)との連携体制の強化。









15年目を記念して作成した缶バッチ

開会式での実行委員中心メンバ







15年目の開会式に集まったのは、何と1,100名





満開時の「はこだて花かいどう」の様子



(↑) 函館新聞

北海道新聞 道南版(→)

ベストシーニックバイウェイズプロジェクト2018

# 活力ある地域づくり



- 2. ルート内道の駅スタンプラリー(東オホーツクシーニックバイウェイ)
- 3. ルート活動活性化のための組織づくり(+勝シーニックバイウェイ トカプチ雄大空間)
- 4. 地域資源の再発見~100年後の未来に残す「道づくり」

(札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山渓ルート)

- 5. どうなん道の駅連携事業(どうなん・追分シーニックバイウェイルート)
- 6. フォトラリーの開催(層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ)
- 7. ~これからの空知を考える~地域創生フォーラム(空知シーニックバイウェイ 体感未来道 )

活動名

~景観阻害物を撤去して再利用!~

道路周辺等の雑木駆除を生かした観光振興プロジェクト

#### 活力ある地域づくり エントリー部門

#### 支笏洞爺ニセコルート ルート名称

#### ①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

●活動の目的・目標:

Lックバイウェイによる沿道の景観清掃活動の中で、目に付いた道路の景観 を阻害する胡桃の木等を撤去する活動を兼ね、遊歩道に杖や案内サイン等を設置。

●活動内容:①案内標識等の視認性を妨げる<u>樹木の枝打ち等</u>による<u>道路景観の向上</u> ②枝打ちした胡桃の枝等を杖に加工:登山道での無料貸出し杖設置

③ブドウヅル等を活用した**加工品の制作・販売**(地域バザール等)

④会員を対象とした籠編み講習会等を通じた地域の人材育成

●活動期間:平成27~30年度(※継続展開中)

・実施場所:洞爺湖周辺の道路沿道(国道・道道等)

※道路脇などに自生するクルミ・ヤマブドウの枝を払い

関係者・関係機関との調整をした上で実施

#### 樹木の枝打ち ②活動の体制 ジオサイト誘導看板の設置 地域人材の育成等 無料貸出し杖の設置等 安全確保 関係機関との調整等 NPO法人 民間企業 有珠山周辺地域 室蘭開発建設部 有珠山ロープウェイ ジオパーク友の会 有珠復旧事務所 洞爺湖有珠山 火山マイスター ネットワーク 現在、52名の火山マイスターが、 防災教育や学習会などの講師や サポートなど、様々な活動を展開

#### ③ P Rポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

- ・地域資源(人・もの等)のリユース・リサイクルおよび高付加価値化
- ・加工品の売上げは、地域活動に還元するなど、活動の自立に繋がっている
- ・女性メンバー等、幅広く多くの方々に地域活動に参加してもらう気運醸成
- ・道路沿道での活動を伴うため、**道路管理者・地域・民間の密な連携体制の構築**
- ・樹皮を活用できる枝打ち時期が短期間に限られていること

#### 【活動による効果】

- ・有珠山観光客に対するサービス提供に対する高評価【外向きの効果】
- ・地域資源および地域人材の活性化【内向きの効果】







#### ベストシーニックバイウェイズプロジェクト2018

#### ルート内道の駅スタンプラリ-活動名称

エントリー部門

活力ある地域づくり

#### 東オホーツクシーニックバイウェイ ルート名称

## ①活動概要

ルート内の回遊性向上、ルートの認知度向上の目的から、ルート内7道の駅 を対象としたスタンプラリーを6月1日~10月30日の期間で 実施しました。景品(清涼飲料水1箱×2名、7道の駅特産品詰め合わせ×2名、 7道の駅それぞれの特産品×14名)

#### ②活動の体制

●活動団体、人数、体制図等

催】:東オホーツクシーニックバイウェイ連携会議 【主 援】:網走開発建設部、コカコーラ(株)網走営業所 【後

【協 力】:ルート内7道の駅

## ③PRポイント

●創意工夫した点

包括連携企業であるコカ・コーラ(株)と連携し、景品等の一部を確 保できました。

## ●苦労した点

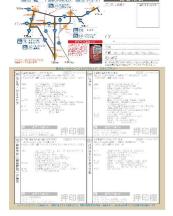
予算的制約等から、スタンプラリー帳にはシーニックの情報はルート 名、ロゴ、簡易地図の記載が限界でした。今後はルートの認知度向上の ため、ルートで推挙している観光資源情報等も加えていきたいと考えて います。

## ●活動による効果

スタンプ帳10,000枚を作成・配布し、当選者枠が18人でありま したが1,100人の応募をいただき、アンケート(1,100人) 結果からは 「今まで知らなかった地域情報を得ることができた」、「集めるのに丁 度よい数」等の好評の感触を得ることが出来、ルート内回遊性の向 上に寄与できたと考えています。 21



表面



裏面

#### -ト活動活性化のための組織づくり 活動名称

エントリー部門

活力ある地域づくり

#### 十勝シーニックバイウェイ トカプチ雄大空間 ル ー ト 名 称

組織設立から10年以上が経過したが、同一のメンバーが主活動を担っているた め活動が恒常化している。そのため、組織の今後のあるべき姿に立ち返り**今後** の体制づくりを強化し、新しいシーニックバイウェイ活動に繋げることを目的 として、平成29年度からルート活動活性化のための組織づくりの検討を開始し、 平成30年度に「代表および組織の在り方検討委員会」を立ち上げた。

●活動期間:平成29年度~平成30年度(現在継続中)

目

的

現状

課題

取

組

現在のルート活動は、収益事業、ボランティアガイド事業、観光マップ制作、 Facebook・HP・Instagramによる情報発信といった多岐にわたる事業を展開。

事業内容が多角化し、継続的な活動が中心になり、会員の**自主性・積極性を育む余地が無くなっているのではないか。**(同一メンバーでの活動が多い)

①上記の現状と課題を受けて、**「代表および組織の在り方検討委員会」を設置**⇒検討会 

ト」を立案・実施し、会員から「やりたい事業」を募集。H30.3に審査会を開催

## シーニックバイウェイ北海道 十勝シーニックバイウェイ 平成31年度 トカブチ雄大空間 運営代表者会議 組織図(案) 総会[運営代表者会議] 表/野村文吾(十勝/汉解) も表/貢献をおり貢献協関蒂坦) 全澤和彦(デザインエ房・全澤) 松下博貞(北の起業広場協問紹合) 監事 鈴木健充((有)めむろブランニング) 高庚正彦(株エコ(RC) 代表および組織の在り方検討委員会 事務局 山中友喜乃(帯広南工会議所 部会 ライフコンジェルタュ とかちファンクラブ 情報発信 情報BOX 楽しむ部会 感じる部会 第4.4 の前を 第6点/様々能大郎 (保険性か・デン選集 司が会長/報告校立 (一世等位統/にパインケエゼ 幹事/角点紀(東洋の解析) 本部会との情報の共有や社協会 などを適じて、新たなイイントやっ アー、キャンペーンなどの企画を はにあ、情報インター契例 情報 コンシェルジュの百済を行う

#### 代表および組織の在り方検討委員会

会員から役員7名・会員6名を選出

新規:会員限定地域振興プロジェクト

今後の体制づくりや会員の取り組みた い事業を検討し、「会員限定地域振興 プロジェクト」を立案。

会員全員を対象とし、自らが取り組み たい事業を提案し、トカプチ雄大空間 が出資する「アイディア実現プロジェ クト」の実施により、会員の希望する

#### プロジェクトの効果

で自主性と積極性を育める。

### 代表および組織の在り方検討委員会では

活動(検討委員会)においては、各自が自由な意見交換が可能となるよ う、交流をしながら**月1回継続的に会議を開催**。柔軟な運営を心掛け、 各自の意見をまとめ、各自が取り組みたいと思う事業をまとめ上げた。

## 会員限定 地域振興アイデア実現プロジェクトでは

検討委員会を受けて、**新しく会員限定地域振興プロジェクトプロジェク** トを立案し、全会員が応募・参加できることで平等性・積極性・自主性 に配慮し、地域のために自らが取り組みたい事業を募集した。 会員に「やりた いこと」を募集

#### 会員限定 地域振興プロジェクト審査会では

会員・部会から応募された6件の事業に対して、プレゼンテーションに よる審査会を実施し、以下、4件の事業を採択。2019年度に実施予定。

#### 事業名:観光案内所・ウォーキングツアー

帯広駅前バスターミナルでの、観光 案内所新設&ウォーキングツアーの 実施 (感じる部会連携)

#### 事業名:ドローン撮影・配信による情報発信

空撮した観光地をYouTubeや Facebookにより発信し、情報発信を 強化 (知る部会連携)

#### 2019年度実施:地域振興アイデア実現プロジェクト採択事業

トカプチ雄大空間の収益事業(とか **ちファンクラブ事業**) の広報活動 (楽しむ部会連携)

事業名:とかちファンクラブ広報事業

することが期待される。

今後

Ø

展望

自らが発案し取り組みを希望する

事業を実施することで、会員自身

が積極的に考え・取り組み・改善

する行動に繋がり、地域が活性化

・設立当初の活動の機運が高まり、

ルート内活動の活性化にも期待。

農業+運動を組み合わせた観光客や イベントに対応した、新しいアク ティビティ(一部補助)

事業名:アグリンピック事業



関係者による審査会を実施(会員がプレゼン発表)

## 事業が自由に取り組める体制になった

各自が希望する事業が実施できること

#### ベストシーニックバイウェイズプロジェクト2018

地域資源の再発見~100年後の未来に残す「道づくり」

活力ある地域づくり エントリー部門

札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山渓ルート ルート名称

Sapporo Scenic Byway

## ①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

●目的・目標:自分達が住んでいる地域の魅力を洗い出し、地域づくりの方向性を確認することを 目的に、シーニックバイウェイ関係者を対象として、各エリアのメンバーのおすすめスポットを巡 る視察ツアーを3回(H27年度~H30年度に渡る4年間のうち)実施した。

●活動内容:

活動名

【1回目】他ルートのシーニックバイウェイの事例を学び当ルートの強みや課題を検証するため、 支笏洞爺ニセコルートを視察する視察ツアーを平成27年11月19日に開催。26名が参加。

【2回目】国道230号の定山渓地区エリアを中心としたコース設定とし、ガイドや立ち寄り先との 調整も各メンバーが担当。 平成29年11月7日に開催し、30名が参加。

【3回目】国道453号の芸術の森地区エリアを中心としたコース設定とし、ガイドや立ち寄り先と の調整も各メンバーが担当。平成30年7月24日に開催し、25名が参加。

どちらの視察ツアーも各メンバーの地域への思いと個性あふれるガイドが魅力的であり、地域の 課題解決に向けた取り組み紹介があり、自分達の住むルートの魅力や活動を再発見することがで きた。ツアー開催後、平成31年3月10日に参加者と観光施設の担当者が一堂に会して意見交換会を 開催し、地域づくりや道づくりの方向性や課題解決に向けて活発な議論を行った。

●活動期間:平成27年度・平成29~30年度

## ②活動の体制

実施主体:地域づくり部会



札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山渓ルート ルート運営代表者会議

視察ツアーの 開催

バイウェイ活動 メンバー 実施主体: 地域づくり部会

札幌シーニック

意見交換会 の開催

地域の観光施設 関係者

## ③PRポイント

- ●メンバーがガイドをすることで、地域の知らない場所を共有できたり、地域の課題解決に向けた紹介があり、ルートの魅力や活動の再発見につながっている。
- ●バスツアー開催後、ツアーでめぐった観光施設の担当者やツアー参加者が一緒に ハスツァー開催後、ツァーでのくった既元旭改いたヨヨロビッケーデがはか、 でいた なって意見交換会を行ったことで、地域の魅力づくりの方向性や地域共通の課題が 明らかになり、今後、札幌シーニック全体で、100年後の未来に残すための地域づく りや道づくりに向けた取り組みを検討・実践していく機運が高ま**22**。

## 1年目 先進事例の視察

支笏洞爺ニセコルートから先進 的な取り組みを学び参考とした





#### 3-4年目 地域の現状把握

自分達が住んでいるルートを めぐり、地域の魅力や課題の 現状を把握





#### 4年目 意見交換会の開催

ルートの課題を知った上で、 未来に向けて方向性を検討



地域の魅力を 地元へ浸透さ せよう

未来に残る道 づくり・地域づ くりをしたい!

#### どうなん・追分シーニックバイウェイルート ルート名称

#### ①活動概要

活動名称

- ●活動の目的・目標:当ルートでは、フットパス事業・サイクルツーリズム事業を推進しており、それらの拠点となる「道の駅」をルート の強力な地域資源として、連携向上による更なる道の駅の質の向上とルート全体への周遊促進の活性化を図ることを目的に道の駅連携に 関する活動に取り組んでいます。
- ●活動内容:道の駅の連携をより高めるため、専門学識者に道の駅について視察して頂き、その結果を基に各自治体及び道の駅担当者と個 別ヒアリングやワークショップを開催し、今後の道の駅の連携に向けて情報交換を実施。サイクルツーリズム事業の推進については、 ルート内の道の駅と連携し、サイクルサインやラック等の整備により、道の駅でのサイクル環境の向上と情報発信の拡充を図った。冬期 の閑散期対策においては、道の駅等が連携したどうなん・追分シーニックdeナイトの取組の拡大を実施しました。
- ●活動期間:平成28年度~30年度

【苦労した点や工夫した点】

## ②活動の体制









-ニックで活用しているサイク . ルサインを利用

9町にサイクルサイン・サイクル ラック・空気入れ・簡易工具を設置

シーニック。ナイト





12月23日に、道の駅みそぎの郷きこない、えさし海の駅海洋 ·ニック d e ナイトを開催

【活動の成果】 ・シーニックdeナイト連携イベントは、道の駅「しりうち」、えさし海の駅開陽丸 を今年度に新たに参画して頂き実施。

専門学識者の視察では、各道の駅の実施内容を道の駅管理者より、直接、説明を

し、各道の駅での課題や改善点等について、御助言を頂ける環境を調整。 ・シーニックdeナイト連携イベントは、より連携ができるよう、道の駅管理者等と

- ワークショップにおいて、今年度の取り組みを通じ、ルート内の道の駅同士の関心が高まり、多くの意見が交わされ、点を線にして いくという意識の統一等が図られ、参加者から好評を得た。
- ・サイクルサイン・ラック・簡易工具を各道の駅等に設置したことにより、ルート内に自転車で巡る環境が確立された。

### 【今後の活動予定等】

道の駅が国道沿いにある恵まれた設置条件を活かして、更なる地域の拠点となるよう多様な連携を実施することによって、観光客だけで はなく、地域の方々にとってもスポーツやレクリエーションの拠点としても活用されるよう、今後も連携を継続していきます。

ベストシーニックバイウェイズプロジェクト2018

実施時期、会場の拡大に向けて調整を実施。

活動名称

フォトラリーの開催

エントリー部門

活力ある地域づくり

#### 層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ ルート名称

#### ①活動概要

●活動の目的・目標

域内を気軽に訪れていただき 来訪者自身に域内の魅力を発見し いただくこと、ルート内の回遊性向上、来訪者増加を目指しています。

●活動内容

スタンプの代わりに写真で層雲峡・オホーツクエリアを巡って頂く。 高度な写真技術は不要で参加者が感じる地域らしさが伝われば資格あり 一か所から応募可能で、スマホなどでどんどん気軽に応募可能としまし

- 9 市町村完全制覇:地域特産品(3万円相当)3名 市町村賞: 地方特産品(1万円相当)抽選で18名(9市町村×2) 市町村賞:

●活動期間 平成28年度~

②活動の体制

企画・運営:層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ

③PRポイント●創意工夫した点 写真の質よりを問わず気軽に参加・域内周遊いただけるよう配慮しま した。スマホからの簡単応募、写真データ提出を可能にしました。

当初はフォトラリー自体の取り組みの認知度が低く、域内のイベント 等でPRが必要でした。

年々参加者が増加しており、徐々に域内周遊客が増加していること 参加者の興味対象の把握が出来、今後どこの資源にどのように対策して いけばよいかの指針となりました。



WEBでの申し込み フォーム



層雲峡・オホーツクシーニックバイウェイ事務局

配布版チラシ

~これからの空知を考える~ 地域創生フォーラム

ェントリー部門 活力ある地域づくり

ルート名称 空知シーニックバイウェイ -体感未来道 -

## ①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

●活動の目的・目標:

2003年より空知地方の経済活性化を図るため、地域の元気を取り戻すイベントとして講演会やセミナーを開催。2016年からの3年間は空知管内におけるシーニックバイウェイをテーマとして、地域・行政・団体・町内会等が連携した「地域資源を活かした活力ある地域づくり・魅力ある観光空間づくり」「子どもたちの未来」「これからの空知」に向けた今後の活動と可能性を模索するフォーラムを企画・開催。

●活動内容:基調講演+パネルディスカッション

●活動期間:平成28年度~平成30年度

## ②活動の体制

主催:(一社)空知建設業協会

後援:空知総合振興局/札幌開発建設部/空知地方総合開発期成会/岩見沢商工会議所/(一社)北海道建設業協会/(一社)シーニックバイウェイ支援センター

協賛:株北海道新聞社/株北海道建設新聞社/株北海

道通信社/㈱空知新聞社

#### ③PRポイント

【総意工夫した点や苦労した点】

・広域的な地域活性化イベントとして、様々な角度から地域の再生・創生に向けた議論を継続的に実施している。

#### 【活動による効果】

- ・地域の景観資源の再認識・掘り起こし。
- ・空知シーニックバイウェイ立ち上げの気運を高め、候補ルート申請に至った。
- ・地域・行政・団体から、地域づくり、地域の活性化への協力が得られ、一体となって活動が行えること。



#### 2016

#### 【基調講演】

(社)日本ソムリエ協会認定ソムリエ 池田卓矢氏

#### 【特別講演】

コンセプト株式会社 代表取締役 佐藤雄一氏

#### 【鼎談】

- ・コンセプト株式会社 代表取締役 佐藤雄一氏
- ・(一社)日本ソムリエ協会認定ソムリエ 池田卓矢氏
- ・(一社)シーニックバイウェイ支援センター代表理事 原 文宏氏



## 2017

#### 【基調講演】

『農業による地域づくり』 慶応義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科特任教授、

北海道大学大学院農学研究員客員 教授 林 美香子氏

#### 【シーニックバイウェイ座談会】 『空知づくり、地域づくり、人づくり』

・慶応義塾大学大学院システムデザ

- を応載をハチハチ院フヘナステッイン・マネジメント研究科特任教授 北海道大学大学院農学研究員客員 教授 林美香子氏
- ·NPO法人炭鉱の記憶推進事業団 副理事長 植村真美 氏
- ・NPO法人なよろ観光まちづくり協会 事務局長 畑中覚是氏
- ・有限会社山﨑ワイナリー 山﨑 太地 氏
- (コーディネーター)
- ·株式会社北海道建設新聞社 代表取締役社長 荒木 正芳 氏



#### 2018 【特別講演】

#### 【付別碑供】 『ピンチはチャンス。?

『ピンテはチャンス。? 決してあきらめない。

ゼロだからこそ可能性はある。』 鈴井貴之氏(そらち応援大使) ㈱クリエイティブオフィスキュー

## 【パネルディスカッション】

『これからの空知を考える』

- ・そらち応援大使 ㈱クリエイティブオフィスキュー 鈴井貴之氏
- ·北海道空知総合振興局長 佐々木誠也氏
- ・空知シーニックバイウェイ代表工藤克彦氏
- ·岩見沢生活情報誌
- 『これっと』編集長 栗林千奈美氏 (コーディネーター)
- ·㈱北海道建設新聞社代表取締役社 長 荒木正芳氏

ベストシーニックバイウェイズプロジェクト2018

# )魅力ある観光空間づくり





1. ~支笏湖一体の持続的な発展に向けて~ 国立公園満喫プロジェクト「おもてなしの地域づくり」

(支笏洞爺ニセコルート)

2. 道北シーニック連携フォトコンテストの開催

(大雪・富良野ルート/宗谷シーニックバイウェイ/萌える天北オロロンルート/天塩川シーニックバイウェイ)

- 3. 包括連携企業や道の駅と連携したスタンプラリーの開催
- 4. シーニックカフェの登録・カフェ連携の推進(萌える天北オロロンルート)
- 5. フォトコンテスト事業(+勝シーニックバイウェイ +勝平野・山麓ルート)
- 6. 「きた北海道エコ・モビリティ」の推進 R3モニターツアーの実施 (天塩川シーニックバイウェイ/宗谷シーニックバイウェイ)
- 7. "道の駅"からはじまる"空知サイクルツーリズム"

(空知シーニックバイウェイ-体感未来道-)

〈今後〉

## ェントリー部門 魅力ある観光空間づくり

## ルート名称 支笏洞爺ニセコルート

#### ①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

●活動の目的・目標:

動

"世界水準の国立公園"を目指しインバウンド拡大への対応 や利用の質の向上に資する組織検討・アクティビティ開 発・情報発信の連携等に地域内外が一体となって取組んだ。

●活動内容:①支笏湖DMO組織の組成の検討

②外国人客の来訪を促す二次交通の充実

③支笏湖アクティビティプログラムの整備・開発

④拠点連携による情報発信の充実

〈満喫ブロジェクト展闘事業で目指すこと〉

●活動期間:平成29~30年度(※継続展開中)

②活動の体制 国立公園支笏湖運営協議会、(一財)支笏湖ビジターセンター、千歳 観光連盟、千歳市、国土交通省北海道開発局、環境省支笏湖自然保護 官事務所、ゆっくりズム北海道、札幌大通りまちづくり会社(株)、

シーニックバイウェイ支援センター

## ③PRポイント

〈現状〉

【総意工夫した点や苦労した点】

- ・99%以上が国有地で規制が厳しい中、自然環境の保護を行いながら自然と共生する観光地として、地域内外の連携強化により、今の自然環境を維持しながら収益力を高める"支笏湖アクティビティ"を開発。 【活動による効果】
- ・国立公園支笏湖運営協議会の社団法人化(DMO的組織)のもと、<u>新た</u>なレンタサイクル事業の始動、外国人向けアクティビティプログラムの 共同実施の体制が整い、地域が一丸となって 共通のターゲット像に向け (欧米自然愛好者の長期滞在)、共通の価値を提供できる体制が整った。

#### <支笏湖の現況MAP整理>

地域内外のステイクホルダーが集まる満 喫ミーティングを月1回開催。支笏湖の 現況MAPを作成し課題を共有。



現在も満喫ミーティングを継続し、 官民一体で活動を推進。



#### <フィールド調査/アクティビティ開発ワークショップ>

地元大学とのフィールドワークによるプログラム検討 (5~11月)



外部専門家(マイクハリス氏) : アクティビティプログラム開発ワークショップ3泊4日



"支笏湖の静けさ、清楚な佇まい"をコンセプトとしたエコツアープログラムの造成

● 1 泊2日

"5感を満たす支笏湖らしい時間~春の水辺"

- ・DAY1 午後 支笏湖カヌー: 導入 支笏湖全体を感じる タ方 サンセット ki-copづくり: 美しい時間を過ごす 宿泊 支笏湖温泉
- ・DAY 2 朝 湖畔の散策~朝の支笏湖

"5感を満たす支笏湖らしい時間~冬の森"

- ・DAY1 午後 楓沢の洞門ウィンタートレック 導入 支笏湖全体を感じる 宿泊 支笏湖温泉
- ・DAY 2 朝 氷濤祭り制作バックヤードツアー

#### ベストシーニックバイウェイズプロジェクト2018

活動名称 道北シーニック連携フォトコンテストの開催

エントリー部門

魅力ある観光空間づくり

ルート名称大雪・富良野ルート/宗谷シーニックバイウェイ/萌える天北オロロンルート/天塩川シーニックバイウェイ

## ①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

●活動の目的・目標:

美しい風景を通し道北のシーニックバイウェイ4ルートの新たな魅力の発掘するとともに、写真愛好家や観光旅行者の周遊向上を目的にフォトコンテストを開催。

#### ●活動内容:

道北のシーニックバイウェイ4ルートで撮影された風景写真等のフォトコンテスト継続的に開催。

作品テーマは「自由」とし、2ルート以上で撮影した作品(2作品以上)を応募。なお、応募できる写真は、「平成30年10月から募集期間内に撮影した写真」としている。

年2回ほど実行委員会を開催し、開催方法の検討や作品の審査 等を行っている。

●活動期間:平成27年度~平成30年度(継続中)

## ②活動の体制

#### 道北ルート連携フォトコンテスト実行委員会

実行委員長:大雪・富良野ルート 代表 加藤祐一

事務局:宗谷シーニックバイウェイ 事務局長 杉川 毅

専門家:大雪・富良野ルート 幹事 菊地 晴夫

#### 構成員

各ルートからルート代表及びフォトコンテスト担当者2名 が実行委員会に参加

大雪・富良 宗谷シーニッ 萌える天北才 天塩川シーニッ 野ルート クバイウェイ ロロンルート クバイウェイ

### ③PRポイント

- 2ルート以上で撮影した作品(2作品以上) で応募可能とし、ルート間の周遊性を向上 させるように工夫。
- ・応募できる写真は、「平成30年10月から 募集期間内に撮影した写真」とし、新しい 風景や素材などを収集できるように工夫。
- 実行委員会を定期的に開催し、連携の 強化、お互いにルート資源を共有して いる。
- ・前回の開催から「学生部門」を設け、若者 から見たルートの風景等を収集している。



平成31年度の募集チラシ

年度	H27	H28	H29	H30
応募数	140	207	92	131

平成29年は応募者数が少なかったが、毎年 130作品以上の応募がある。



過去の入選作品は、写真パネルにして、各 ルート持ち回りでパネル展を実施。フォトコンのPRに務めている。

フォトコンテスト公式ウェブサイト▼ https://www.biei.org/scenicbywayphotocontest/index.html



実行委員会にて入選作品を審査。審 査会等を通じて、他のルートの風景 や資源を知ることができる。



平成30年は天塩川シーニックの作品 がグランプリを受賞した。

旭川開発

留萌開発

稚内開発 建設部

ルート担

当 (dec)

建設部

建設部

包括連携企業や道の駅と連携したスタンプラリーの開催 活動名称

魅力ある観光空間づくり エントリー部門

ルート名称 釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ

## ①活動の概要

●活動の目標:シーニックカフェと道の駅の連携による地域の魅力アップと交流人口の増加

●活動の内容:シーニックカフェ8箇所、釧路・根室管内の道の駅7箇所、たんちょう釧路空港、

根室中標津空港を結ぶスタンプラリー(ぐるっと!スタンプラリー)

●活動場所:釧路・根室管内全域

●活動期間:平成30年4月28日~平成30年10月31日(スタンプラリー開始から8年目!)

## ②活動の体制

## 地域空港 (2箇所)

## 道の駅(7箇所)

連携開催して、8年目!

シーニックカフェ(8箇所)

主催:くしろ・ねむろぐるっと! スタンプラリー事務局 (釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ事務局内) 平成30年度からは、後援団体に シーニックバイウェイ北海道の 包括連携企業である北海道コカ・ コーラボトリング様が参加!!

・別海ツよソンへんンツス 北海道コカ・コーラボトリング賞 スタンプ 個以上で!(抽選) ●道東で人気の缶コーヒー「ジョージア サントスプレミアム」6本・・・15名橋

共催:釧路・根室地域「道の駅」連携会議、釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ運営行政連絡会議ほか後援:北海道地区「道の駅」連絡会、北海道コカ・コーラボトリング(株)、北海道開発局釧路開発建設部ほか

## ③PRポイント

- ●道の駅と連携による魅力アップ! 台紙やポスターの作成、印刷を釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイで 実施する一方、参加者への賞品については、全ての道の駅からご提供(平成30年度は32名分)をいただきました。
- ●包括連携企業と連携して、さらに魅力アップ! 平成30年度は、北海道コカ・コーラボトリング様に後援をいた だき、「北海道コカ・コーラボトリング賞」の賞品(ジョージア サントスプレミアム6本×15名)をご提供いただきました。 また、「そららの森の植樹祭」でも、ドリンクをご提供いただきました。ルートとしては、スタンプラリーの台紙やルートの Facebook等を用いて、北海道コカ・コーラボトリング様のご協力を周知するとともに、深い感謝をお伝えしています。
- ●つい立ち寄りたくなるカフェでのサービス提供! シーニックカフェ8箇所、道の駅4箇所では、スタンプラリ-台紙を見せると、ドリンクやトッピングのサービスや、料金割引などの独自サービスが受けられるようになっています。



写真 幹事会にもご参加くださった 北海道コカ・コーラボトリングさん

#### 【活動の成果】

- ●平成23年度から始まった本スタンプラリーも8年目。釧路湿原・阿寒・ 摩周シーニックバイウェイのシーニックカフェグループミーティングや、 行政連絡会議での継続的なブラッシュアップもあり、観光客はもちろ ん、地域住民のリピーターも多いスタンプラリーに成長しています。
- ●平成30年度のスタンプラリーの景品応募者は、過去最高を記録した 前年よりは減少したものの、3年連続で1000名以上となりました。

	平成30年度	(前年比)	平成29年度
スタンプラリー賞品への応募者数	1,098名	(90%)10%減	1,218名
賞品応募者の対象施設への立ち寄り総数	8,558件	(92%)8%減	9,295件
うち、「道の駅」への立ち寄り総数	5,444件	(94%)6%減	5,770件
うち、シーニックカフェへの立ち寄り総数	2,014件	(92%)8%減	2,179件

ベストシーニックバイウェイズプロジェクト2018

シーニックカフェの登録・カフェ連携の推進

ェントリー部門 魅力ある観光空間づくり

#### 萌える天北オロロンルート ルート名称

## ①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

- ●活動の目的:地域の人がおススメできる飲食店を、シーニックカフェとして登録し、統一的なPRによるブランド化を目指すとともに、カ フェで地域情報を発信し、**より道 (Byway)観光を促進**することで、<u>魅力的な観光空間</u>を作ることを目的とする。
- ●活動内容:シーニックカフェ(ルート内に9箇所)に統一のシーニックカフェPOPを配置し、ブランド化を推進(H27)。既存のルート活 動(道の駅オロロンスタンプラリー)への参加(H28)や、ルート内のシーニックカフェ有志による「キャンドルナイトdeホワイトデーin scenic café」(H29)を実施。しかし、ルート活動とカフェとの意識共有・連携に課題があることから、平成30年度は、シーニックカフェ のメンバーと、地域情報の発信に関する意見交換を実施した。

●活動期間:平成26年度-平成30年度

#### ②活動の体制

ルート幹事と行政連絡会議(開建)とが連携し、登録を推進。 ルート活動との連携を深めるため、カフェのコアメンバーと、連携に 向けたミーティングを実施。

## ③ P Rポイント

#### 【苦労した点や工夫した点】

登録開始当初から、カフェ同士の連携、連帯感の創出を目指し、統-のPOPを活用。既存活動との連携により、ブランド化・周知活動をよ り円滑に効果的に行った。しかし、ルート活動とカフェとの連携を発 展には至らなかったため、カフェメンバーとの意見交換と通して、連 携への意欲を高めるアプローチを行った。

#### 【活動の効果】

スタンプラリーへの参加で、集客にもつながり、シーニックカフェと としての認識や参加意欲が上がった。一部、課題があるものの、連携 活動の試行に至っている。

#### 【今後の活動予定】

カフェのコアメンバーによる活動展開の意見交換を実施 広域的なカフェ連携の推進(他ルートとの連携) 連携方法の試行(互いの店舗情報や魅力を店内でPR) ルート内の魅力的な地域資源のPR発信地としての機能を目指す



ニックカフェ紹介POP (H27)



道の駅スタンプラリーへの参画 (H28)



シーニックカフェ有志による キャンドルナイトの試行 (H29)



ルート幹事とシーニックカフェ メンバーとのミーティングを実施 (H30)

26

フォトコンテスト事業 活動名

エントリー部門

魅力ある観光空間づくり

#### 十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルート ルート名称

#### ①活動概要

●活動の目的・目標

ルート内の美しい景観を広くPRする為、SNSも活用したフォトコンテストを通じ て新たな魅力を発見し、ルート内の回遊性・交流人口の増加、今後のPR活動に 役立てることを目的とした取り組み。

#### ●活動内容

- 撮影場所:十勝シーニックバイウェイ 十勝平野・山麓ルートエリア内 (鹿追町・清水町・士幌町・上士幌町・足寄町・陸別町・新得町)
- マは、①「道のある風景」、②「農村・自然風景」③「祭事・イベ 作品テ ント等のスナップ」④「食に関するスナップ」⑤「ルート内の再発見」 道の駅・観光施設へチラシ配布のほか、ホームページ・SNSで周知案内。
- 募集期間:2018年8月1日~2019年2月20日(取組開始は2011年度~)
- 募集形式:写真プリントまたは、インスタグラムでの応募





■応募数 ・インスタグラム 156枚 メール郵送等 計 222枚

> ※2019年4月現在、 応募に利用された

#(ハッシュタグ)トカチさ **んろくフォトコン**"による 投稿は308件に上り、締め 切り後もルートの魅力を発 信する一助となっている。

入賞者

24枚 42枚

②活動の体制

ルート運営

代表者会議

ルート運営

事務局

観光振興 分科会

景観形成 分科会

地域づくり 分科会

フォトコン事務局 新得町 観光協会

審査会

各町村より1名選出 審査結果を事務局へ

## 【創意工夫した点や苦労した点】



- 郵送等の応募のほか、手軽に投稿可能なインスタグラムでの作品募集。
- ・プロ撮影の写真とスマホ撮影画像に差が出るため、審査基準を設けた。
- ・通常入選の他、各町賞を設け、各々魅力のある写真を選出が設定した。
- ・前回よりも応募開始を早め、春夏秋冬の画像が偏らないよう配慮した。また、 募集期間を2月末までにすることにより、冬の写真の応募も可能にした。 (2011年に開催した内容を踏まえて、募集要領を変更)
- ・SNSを利用した初めての事業のため、アカウント取得、管理、SNSから個人へ の連絡、商品発送のための個人情報入手等のハードルがあった。
- ・ルートのPRを目的としているため、賞品には地域特産品や宿泊券を用意。

## 【活動による効果】

- ・応募総数222点、の内、インスタグラムからの投稿が7割近くを占めた。
- ・応募作品は、ルート周知にかかるチラシ、ポスター、ホームページ、SNSで使 用し、観光施設やイベント等で作品展示に活用予定。
- ;作品募集や展示を通じて当ルートの新たな魅力を発見してもらい、来訪者の 増加につながることが見込まれる。
- ・インスタグラムでの応募を可能にしたことにより、従来よりも幅広い層からの応 募があり、新しい魅力発見に繋がった。









写真投稿画面(インスタグラム)※一部抜粋

## ベストシーニックバイウェイズプロジェクト2018

活動名称

「きた北海道エコ・モビリティ」の推進 R3モニターツアーの実施

エントリー部門 魅力ある観光空間づくり

#### 天塩川シーニックバイウェイ × 宗谷シーニックバイウェイ ルート名称

## ①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

- ●目的・目標/体験型観光と個人旅行のニーズを含め、<u>一次交通の衰退や二次交通の脆弱さを逆手に、地域にとってプラス</u> に、地域資源に触れ・遊び・**移動そのものが観光**となる新しい旅のスタイル『きた北海道エコ・モビリティ』 を広域で連携・推進 ⇒スロウな旅が地域への滞在時間の長期化・経済効果・周遊性向上に繋がる。
- ●活動内容/R3モニターツアーの実施+a (TEPPEN-RIDEとバスツアー)

道 (Road = 自転車・歩く) と川 (River = カヌー)と鉄道 (Rail = JR 宗谷本線に乗車、駅弁) が並行する地 域性を活かして3つのRを繋ぎ、美しい景観を見て&自然に触れて遊び&美味しいものを味わいながら日本 のてっぺんを目指す旅を提供。過年度より実施している自転車だけで日本のてっぺんを目指すサイクリング イベントTEPPEN-RIDEとは違う楽しみ方で、地域をより深く知ってもらう。

そこで

#### <過年度までの参加者・その他意見より>

- ★TEPPEN-RIDEをいつかは走りたい。けれど、全工程を走り切る自信 がない。けれど、てっぺんを目指したい。
- ★自分はTEPPENに参加したいが、<u>家族で旅をしたい</u>ため、<u>自転車だけ</u> <u>でないもの</u>があるといい。
- ★<u>地域資源に触れて遊びながら</u>、<u>地域の人と触れ合う時間</u>がほしい。
- ★色んなアクティビティを楽しみ、ゆっくり巡りたい。
- ★TEPPENライダーたちを応援したい。

⇒**当エリアへ興味・関心**があり、**ツアーのニーズ**もあることを確認できた。

こちらの目的(目標)とニーズに合わせて

## 3種類のツアーを同時開催!

- ●自転車のみ=TEPPEN-RIDE
- ❷様々なアクティビティ+JR=R3モニターツアー
- ③バスのみ=TEPPEN応援バスツアー
- ◎同じ出発地・到着地×3日間!
- ◎3種3様の異なる移動手段で 同じコ-−ルを目指す!
- ◎毎日どこかのタイミングで合流!
- ●活動期間/2018年7月~2019年9月 <2017年度から「きた北海道エコ・モビリティ」の取組みを継続実施>
- 活動範囲/きた北海道エリア(天塩川シーニックバイウェイ、宗谷シーニックバイウェイ、その他関係する近隣市町村)

#### ②活動の体制

## 実施主体 きた北海道エコ・モビリティ

天塩川シーニックバイウェイ (事務局) 宗谷シーニックバイウェイ

ニックバイウェイ支援センタ-



常に密に情報共有

北海道エコ・モビリティ研究会/北海道のサイクル ツーリズム推進に向けた検討委員会/旭川開発建設 部/稚内開発建設部/JR北海道旭川支社/その他(団 体/自治体/企業等)

## ③ P Rポイント

- 【総意工夫した点や苦労した点】 ・JRとの協議を重ね、スムーズな移動手段を検討(既存列車の有効活用等)
- ・R3とバスツアーの立ち寄り箇所・体験メニューを毎日変え、各ツアーの 加がお互いに体験したことを共有しあい、当エリアの様々な魅力を別の 角度から知れるような仕組みとした ・将来の自走を見据え、取り組みへの協賛を募り、広報媒体等でPRした
- ・道路(自転車/バス)と川からのアプローチ(カヌー):絶妙な場所の設定と時間調整
- ・3つのツアーが同時に進行のため、スタップ間での情報共有を徹底

#### 【活動による効果】

- ・JR(旭川支社)との連絡体制が確立/取組みへの理解が増した
- ・旅行会社で別途、TEPPEN PIDE応援ツアーの企画・販売された・協力企業(仲間)が増え、連営資金の確保に繋がった

8 4 0 ▲ツアー参加者募集のチラシ



▲1R完谷本線に自転車積込:輪行



▲天塩川のカヌー体験(左)、宗谷丘陵の 白い道を電動アシスト自転車で(右)



▲TEPPEN-RIDE参加者とバスツア 参加者と宗谷岬でGOOL!

活動 名称 "道の駅"からはじまる"空知サイクルツーリズム"

エントリー部門

魅力ある観光空間づくり

ルート名称 空知シーニックバイウェイ-体感未来道-

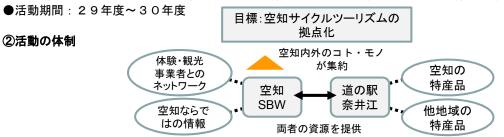
#### ①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

#### ●活動の目的・目標:

・札幌、旭川や富良野といった観光地に挟まれた空知は、これまで通過されがちで観光地としての発信や着地の受け入れが弱く、地域にお金が落ちにくいという課題がありました。一方、サイクルツーリズムとしては札幌からの日帰り圏内でサイクリストの利用が多い地域という特徴があります。そこで、空知シーニックバイウェイでは、グリーンツーリズムやワインツーリズム、ヘリテイジツーリズムといった空知らしい体験観光を自転車移動を使って楽しめるコト・観光消費が生まれ地域が潤うコトづくりの第1歩として <u>"道の駅"からはじまる</u>"空知サイクルツーリズム"の取組をスタートしました。

#### ●活動内容:

- 1) 空知SBWの構成団体や事業者等と連携したサイクリングルートの開発とツアーの造成
- 2) 道の駅を拠点としたサイクルツーリズムによる観光消費を促す仕掛けづくり ★道の駅サイクルステーション化、★地域交流による商品物販と周辺の宿泊地と旅行商品の造成
- 3) 冬期間のサイクリストの集う場づくり(人材講習会・管内愛好家ワークショップ・練習会等)



#### ③PRポイント

- ・道の駅奈井江にて、<u>サイクルツーリズム拠点化を担当する職員の雇用が生まれた</u>(㈱アーチ・ヒーロー× NPO法人日本一直線道まちづくり研究会との空知SBW活動団体同士の事業連携)。
- ・道の駅にサイクルツーリズムに係る機能を集約させることで、地域内外の情報や資源が消費活動として落とし込める。

#### 空知 サイクルステーション 第1号 道の駅ハウスヤルビ奈井江



日本一の直線道路「国道12号」の中間にある"道の駅ハウスヤルビ奈井江"を空知サイクルツーリズムの拠点(安全安心なサイクリング環境の提供・歴地、風土、農などといった空知ならではの周遊を楽しめるサイクリング(ツアー)発着地・サイクリストが集う場・地域特産品を買い求めやすい等)を目指す第1号のサイクルステーションとして取組を始動





道の駅奈井江で使用されているサイクルラック

道の駅奈井江で開催された冬期サイクル練習会



しまなみ海道の特産品「河内晩柑」(道の駅奈井江でゴールデンウィークに販売)